

**令和元年度**（2019年度）

**教育委員会の点検・評価報告書**

平成30年度（2018年度）事業対象



**高崎市教育委員会**

## 基本方針

本市では、「教育と人づくり」を基本方針の一つに掲げて新しいまちづくりに取り組んでおり、一人ひとりの子どもたちや市民に寄り添う教育行政の充実を図っています。また、子どもたちがいじめのない環境で健やかに、伸びやかに、個性豊かに育つため、学校や地域社会で守り育てる環境を整えることが大事であると考えています。

「教育都市高崎」の創造を目指し、子どもたちの命を守る危機管理の強化、子どもたちや保護者、地域が誇れる学校教育の充実、子育てや親としてのあり方など家庭教育の充実、市民の自己啓発のための生涯教育の充実、人生を豊かにするためのスポーツの推進などに取り組んでいきます。

## 高崎市教育大綱の施策の視点

1. 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成
2. 子どもたちの心身の健康と体力の向上
3. 安全で多機能な教育環境づくりの推進
4. 地域力を育む社会教育の充実
5. 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

## 教育委員会委員（令和元年9月現在）

職名	氏名
教育長	飯野真幸 <small>いいのまさき</small>
教育長職務代理者	乾宏行 <small>いぬいひろゆき</small>
委員	竹内かず普 <small>たけうちかずゆき</small>
委員	清水久美 <small>しみずくみ</small>
委員	塚田ひろ子 <small>つかだひろこ</small>

## 目 次

I	平成30年度事業を対象とした高崎市教育委員会の点検・評価について	1
II	教育委員の活動状況	4
III	会議実績	5
IV	点検・評価結果	
	<点検評価シート>	
	生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成	7
	子どもたちの心身の健康と体力の向上	24
	安全で多機能な教育環境づくりの推進	33
	地域力を育む社会教育の充実	36
	歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進	46
V	点検・評価結果に対する学識経験者の意見	63
VI	点検・評価結果を踏まえた教育委員会の対応・方向性	70



## I 平成30年度事業を対象とした高崎市教育委員会の点検・評価について

高崎市教育委員会では、平成13年に21世紀の教育行政を長期的な視野で調査・研究し、生涯にわたる教育のあり方や方向性を「高崎市教育ビジョン」として策定し、様々な教育課題に取り組んできました。その後、新たな課題の発生や市町村合併により、大きく変化した教育環境に対応するため、平成20年4月に「教育ビジョン」の改定を行いました。

その後、本市では地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長と教育委員会で開催する「総合教育会議」において、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として「高崎市教育大綱」を策定しました。「教育ビジョン」の計画期間は満了しましたが、その趣旨や施策・事業等は「高崎市教育大綱」に基づく施策として承継されています。

教育委員会では、「高崎市教育大綱」に掲げる5つの施策の視点に基づく教育行政と重点施策の推進を図るため、年度ごとに「高崎市教育行政方針」を策定し、当該年度の教育施策の基本的な考え方や方策を決定するとともに、各事業の内容や目標を具体的に示しています。

この点検・評価報告書は、「平成30年度教育行政方針」に掲げた施策・事業等の実施状況の評価検証するもので、今後の施策の方針等を検討した結果についてお知らせするものです。

### 参 考

#### ○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 教育大綱

## 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

### 取組

- 1-1-1 教育機関の連携強化
- 1-1-2 学力向上への取組
- 1-1-3 いじめ対策の更なる強化
- 1-1-4 ゆとりある創造的な教育
- 1-1-5 家庭地域との連携強化
- 1-1-6 子どもを伸ばす教師力の向上
- 1-1-7 特別支援教育の充実
- 1-1-8 教育に関する研究調査及び研修、相談活動の充実
- 1-1-9 学校の活性化と一人ひとりの子どもを生かす教育の推進

### 30年度の取組（事業）

- 幼・保・小連携推進事業
- 子どもの学ぶ意欲向上事業
- 児童生徒の学力補充事業
- 英語教育指導事業
- 高崎市学力アップ推進事業
- いじめ防止対策事業
- やるベンチャーウィーク推進事業
- 「気になる子」対策事業
- 読書活動推進事業
- 学校・家庭・地域連携事業
- 学校教育力向上対策事業
- 通級指導教室推進事業
- 教育調査研究・研修事業
- 適応指導教室推進事業

- 1-2-1 確かな学力の確立
- 1-2-2 キャリア教育の推進
- 1-2-3 国際理解教育の推進

- 学力向上推進事業
- キャリア教育推進事業
- 国際教育推進事業

## 子どもたちの心身の健康と体力の向上

### 取組

- 2-1 心と体の健康づくり
- 2-2 体力の向上とじょうぶな体づくり
- 2-3 自ら身を守る交通安全教育の推進と安全な通学路の確保
- 2-4 魅力ある学校給食づくり
- 2-5 自然体験活動を通じた豊かな心の育成

### 30年度の取組（事業）

- 児童生徒等健康管理対策事業
- 学校保健充実事業
- 部活動充実事業
- 学校体育充実事業
- 交通教室事業
- 給食充実事業
- 給食運営事業
- 小学生自然体験活動事業
- 「健康教育」啓発事業

## 安全で多機能な教育環境づくりの推進

### 取組

- 3-1 安全・安心な学校づくり
- 3-2 多様で弾力的な活動を可能にする学校づくり
- 3-3 地域性を発揮させた学校づくり
- 3-4 環境にやさしい学校づくり

### 30年度の取組（事業）

- 箕輪小学校校舎改築事業
- 学校施設改修事業（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園）
- 学校施設整備事業（高等学校）
- 学校体育施設開放事業

## 地域力を育む社会教育の充実

### 取組

- 4-1-1 地域の教育力を活かした事業の推進
- 4-1-2 学社連携・融合による生涯学習の推進
- 4-1-3 人権文化の創造
- 4-1-4 家庭教育の振興
- 4-1-5 学習支援体制の整備
- 4-1-6 平和な社会生活の創造
- 4-1-7 地域の課題に対応した公民館事業の推進
- 4-1-8 社会教育施設の学習環境の整備

### 30年度の取組（事業）

- 地区推進体制整備事業
- 公民館運営事業
- 生涯学習推進事業
- 人権文化創造事業
- 家庭教育支援事業
- 視聴覚教育事業
- 公民館整備事業
- 社会教育施設改修事業
- 市民活動センター管理運営事業

- 4-2-1 中央図書館の活用
- 4-2-2 中央館と地域館とのネットワークの構築
- 4-2-3 図書資料や視聴覚資料の充実
- 4-2-4 関係諸機関との連携
- 4-2-5 近隣自治体の図書館との連携

- 図書館管理運営事業
- 関係諸機関との連携事業

## 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

### 取組

- 5-1 文化財保護マスタープランの策定・推進
- 5-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり
- 5-3 市民への文化財情報の提供
- 5-4 文化財に親しむための環境づくり
- 5-5 歴史的建造物の保存へ向けた環境整備
- 5-6 地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり
- 5-7 民俗資料の収集と展示
- 5-8 市民の積極的参加を促す資料館活動
- 5-9 市民に開かれた資料館の運営
- 5-10 市民の学習活動の支援

### 30年度の取組（事業）

- 文化財保護マスタープラン策定・推進事業
- 日高遺跡保存整備事業
- 箕輪城跡保存整備事業
- 北谷遺跡保存整備事業
- 山名古墳群保存整備事業
- 「世界の記憶 上毛三碑」関連事業
- 文化財管理事業
- 埋蔵文化財調査事業
- 多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業
- 上野国分尼寺跡範囲確認調査事業
- 文化財調査事業
- 歴史民俗資料館運営事業
- 観音塚考古資料館運営事業
- かみつけの里博物館運営事業
- 多胡碑記念館運営事業
- 吉井郷土資料館運営事業
- 埋蔵文化財センター整備事業

## II 教育委員の活動状況

年	月	日	曜日	行事名	場所
30	4	10	火	高崎経済大学附属高校入学式	経大附属高校
		17	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	5	17	木	高崎市学校保健会定期総会	市文化会館
		29	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	6	27	水	教育委員会定例会	教育委員会室
	7	4	水	高崎市学校・警察連絡協議会視察研修	赤城少年院
		24	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	8	8	水	人権教育シンポジウム	音楽センター
		28	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	9	25	火	教育委員会定例会	教育委員会室
		26	水	くらぶち英語村視察	くらぶち英語村
	10	11	木	高崎市学校保健研究発表会	市文化会館
		23	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	11	8	木	高崎市学校保健大会	市文化会館
		16	金	新任市町村教育委員研修会及び群馬県市町村教育委員会連絡協議会全体研修会	伊勢崎市境総合文化センター
		20	火	教育委員会定例会	教育委員会室
12	20	木	総合教育会議	庁議室	
31	1	13	日	高崎市成人式	音楽センター
		22	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	2	12	火	教育委員会定例会	教育委員会室
		13	水	久留馬公民館視察	久留馬公民館
	3	1	金	高崎経済大学附属高校卒業式	経大附属高校
		13	水	中学校・特別支援学校卒業式	各学校
		18	月	教育委員会定例会	教育委員会室
		22	金	小学校卒業式	各学校



### Ⅲ 会議実績


日 時	議 案
平成 30 年 4 月 17 日(火) 午後 2 時～	報告 ・平成 30 年度子供の読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰の受賞について
5 月 29 日(火) 午後 2 時～	1 高崎市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について 2 平成 30 年度高崎市一般会計補正予算（6 月議会提出分）教育費見積書の提出について 報告 ・第 6 回高崎学検定及び第 5 回高崎学検定解説 B O O K について
6 月 27 日(水) 午後 1 時 30 分～	1 臨時代理の承認について（教育委員会の権限に属する事務を副市長に委任する規則の一部改正） 2 臨時代理の承認について（高崎市高崎経済大学附属高等学校平成 31 年度使用教科用図書の採択） 3 高崎市幼稚園規則等の一部改正について 4 高崎市社会教育委員の委嘱について 5 高崎市公民館運営審議会委員の委嘱について 報告 ・ミュージアムスタンプラリーについて ・東小学校における漏水への対応について ・ブロック塀の緊急点検について
7 月 24 日(火) 午後 2 時～	1 高崎市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会委員の委嘱について 2 平成 31 年度使用教科用図書の採択について
8 月 28 日(火) 午後 2 時～	1 部活動の推進について 2 平成 30 年度高崎市一般会計補正予算（9 月議会提出分）教育費見積書の提出について 報告 ・高崎市いじめ防止こども会議の開催結果について
9 月 25 日(火) 午後 2 時～	1 臨時代理の承認について（高崎市立幼稚園保育料等徴収条例施行規則の一部を改正する規則） 2 平成 30 年度教育委員会の点検・評価報告書の決定について 3 高崎市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会委員の委嘱について 4 平成 30 年度末県費負担教職員人事異動方針について 報告 ・平成 30 年度各種音楽コンクール等の実績について ・平成 30 年度中体連総合体育大会の結果について
10 月 23 日(火) 午後 2 時～	1 高崎市文化財保護賞候補者の推薦について


	<p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度日本PTA全国協議会長表彰の受賞について</li> <li>・平成30年度優良PTA文部科学大臣表彰の受賞について</li> <li>・平成30年度高崎市公民館研究集会の開催について</li> <li>・第18回東日本学校吹奏楽大会の実績について</li> </ul>
11月20日(火) 午後2時～	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 臨時代理の承認について（訴えの提起）</li> <li>2 臨時代理の承認について（訴えの提起）</li> <li>3 臨時代理の承認について（訴えの提起）</li> <li>4 平成30年度高崎市一般会計補正予算（12月議会提出分）教育費見積書の提出について</li> </ol> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度生涯学習フェスティバルの開催について</li> <li>・第6回高崎学検定の実施結果について</li> <li>・平成30年度優良公民館群馬県教育委員会表彰の受賞について</li> <li>・平成30年度各種音楽コンクール等の実績について</li> <li>・第24回群馬県高等学校総合文化祭等における実績について</li> </ul>
平成31年 1月22日(火) 午後2時～	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 臨時代理の承認について（訴えの提起）</li> <li>2 平成31年度高崎市一般会計予算教育費見積書の提出について</li> </ol> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度優良PTA群馬県教育委員会表彰の受賞について</li> <li>・平成30年度小・中・特別支援学校卒業式の日程について</li> </ul>
2月12日(火) 午後2時～	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高崎市指定文化財の指定について</li> <li>2 消費税法及び地方税法の改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について</li> <li>3 高崎市公民館条例の一部改正について</li> <li>4 平成30年度高崎市一般会計補正予算（3月議会提出分）教育費見積書の提出について</li> <li>5 平成31年度高崎市教育行政方針の決定について</li> <li>6 県費負担教職員の人事について</li> </ol> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙に伴う高崎駅市民サービスセンター図書コーナーの業務変更について</li> <li>・平成30年度高崎市教育センター「春の教育セミナー」の開催について</li> </ul>
3月18日(月) 午後4時～	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高崎市教育委員会公印規則の一部改正について</li> <li>2 高崎市公民館規則等の一部改正について</li> <li>3 職員の人事について</li> </ol> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29、30年度 高崎市社会教育委員会議答申について</li> <li>・高崎市子ども読書活動推進計画（第二次）の策定について</li> </ul>

IV 点検・評価結果

点検・評価シート

施策の視点	1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成 《義務教育までの教育に関する取組》	担当課
		教職員課 学校教育課 教育センター
取組	1-1-1 教育機関の連携強化 1-1-2 学力向上への取組 1-1-3 いじめ対策の更なる強化 1-1-4 ゆとりある創造的な教育 1-1-5 家庭地域との連携強化 1-1-6 子どもを伸ばす教師力の向上 1-1-7 特別支援教育の充実 1-1-8 教育に関する研究調査及び研修、相談活動の充実 1-1-9 学校の活性化と一人ひとりの子どもを生かす教育の推進	


事業名	幼・保・小連携推進事業（取組 1-1-1）													
事業の目的	公私立の別なく、幼稚園、保育所（園）、認定こども園の連携を深めて幼児教育の充実を図るとともに、幼稚園、保育所（園）、認定こども園と小学校の連携を深め、子どもたちが幼稚園や保育所（園）から小学校へのスムーズな移行ができるようにする。													
実施状況	全公立・私立幼稚園、保育所（園）、認定こども園、小学校で組織する幼保小連絡協議会では、市内を13ブロックに分け、公開保育・授業や保育・授業研究会、実技研修会、教育講演会等を実施した。 <b>◆研修会等参加者数</b> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>1,200人</td> <td>1,111人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>1,200人</td> <td>1,090人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>1,200人</td> <td>1,087人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	28年度	1,200人	1,111人	29年度	1,200人	1,090人	30年度	1,200人	1,087人	 <p style="text-align: center;">幼保小実技研修会の様子</p>
年度	目標	実績												
28年度	1,200人	1,111人												
29年度	1,200人	1,090人												
30年度	1,200人	1,087人												
評価検証	幼保小連絡協議会では、実技研修会、教育講演会、ブロック別研修会（各ブロックで行っている公開保育・授業と授業研究会）を実施し、公私立の別なく保育・教育について協議し、職員間の交流を図るとともに、3歳児から小学校までの発達段階に応じた保育・教育のあり方について研修することができた。 特に、実技研修会では、子どもの自由な心を大切にされた創作について、研修することができた。また、幼稚園、保育所（園）や認定こども園と小学校間での引き継ぎ資料を共通化し、小一プログラムの解消に努めるとともに、滑らかな接続に向け、スタートカリキュラムの充実を図っている。													
今後の方針	幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校の連携は、今日的教育課題で重要性が大きい。幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校の職員が一同に会し、互いに理解し合う機会をもち、交流を深めたり、研修会を実施したりすることができるよう、今後も引き続き事業を推進し、幼児教育の充実に努める。													

事業名	子どもの学ぶ意欲向上事業（取組 1-1-2）								
事業の目的	確かな学力の向上を図るために、授業計画を工夫し、子どものよさを生かして、子どもがわかる授業づくりを充実する。								
実施状況	<p>少人数指導や習熟度別指導、ティームティーチングなど指導形態の工夫を行い、基礎・基本の定着を図るとともに、教科指導助手等を活用しながら、きめ細かな指導の充実に努めた。</p> <p>◆「授業がわかる」と答えた児童生徒が 8割以上いる学校の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 629 852 826"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> 	年度	実績	28年度	98%	29年度	99%	30年度	100%
年度	実績								
28年度	98%								
29年度	99%								
30年度	100%								
評価検証	教科指導助手等を活用し、個に応じたきめ細かな指導を支援したことにより、わかりやすい授業づくりが推進された。また、ICTなどの視覚教材を使った授業が増えたことにより、子どもたちの学習への興味関心が向上しつつある。市学力調査や全国学力・学習状況調査の結果から、基礎的・基本的な知識・技能の習得については一定の成果が表れていることから、児童生徒に基礎・基本が身に付いているものと考えられる。								
今後の方針	<p>確かな学力の向上は本市学校教育の重点課題である。単元構想、学習課程スタンダードを生かした子どもがわかる授業づくりを推進し、児童生徒の基礎学力と学ぶ意欲の向上に努める。</p> <p>また、学力調査の結果を検証し、個に応じた指導など指導形態の工夫に努めていく。</p>								



事業名	児童生徒の学力補充事業（取組 1-1-2）																																																
事業の目的	児童生徒の学力を確かなものにするため、授業時間以外にも様々な機会をとらえて学力補充に取り組む。																																																
実施状況	<p>夏季休業を利用して、英語に慣れ親しんだり、英語力を向上したりすることを目的に、小学生を対象とした「イングリッシュ・フェスタ」と中学生を対象とした「イングリッシュ・サマースクール」、「イングリッシュ・サマーキャンプ」を開催した。また、2学期中の日曜日を利用して、数学への興味・関心を高めることを目的に、中学生を対象とした「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座を8日間開催した。</p> <p>◆イングリッシュ・フェスタ参加児童数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>200人</td> <td>136人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>200人</td> <td>140人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>150人</td> <td>129人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆イングリッシュ・サマースクール参加生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>70人</td> <td>53人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>60人</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>60人</td> <td>79人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆イングリッシュ・サマーキャンプ参加生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック参加生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>60人</td> <td>78人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>70人</td> <td>58人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>60人</td> <td>55人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	28年度	200人	136人	29年度	200人	140人	30年度	150人	129人	年度	目標	実績	28年度	70人	53人	29年度	60人	42人	30年度	60人	79人	年度	目標	実績	28年度	30人	30人	29年度	30人	30人	30年度	30人	30人	年度	目標	実績	28年度	60人	78人	29年度	70人	58人	30年度	60人	55人
年度	目標	実績																																															
28年度	200人	136人																																															
29年度	200人	140人																																															
30年度	150人	129人																																															
年度	目標	実績																																															
28年度	70人	53人																																															
29年度	60人	42人																																															
30年度	60人	79人																																															
年度	目標	実績																																															
28年度	30人	30人																																															
29年度	30人	30人																																															
30年度	30人	30人																																															
年度	目標	実績																																															
28年度	60人	78人																																															
29年度	70人	58人																																															
30年度	60人	55人																																															
評価検証	<p>A L T（英語指導助手）や数学専門教師を活用することで、各事業の内容の充実を図ることができた。「イングリッシュ・サマースクール」は、A L Tと十分にに関わり、英語を使う体験が十分にできるよう、形態や内容に見直しを行った結果、参加生徒数が増えた。英語教育への関心の高まりから「イングリッシュ・サマーキャンプ」は、抽選になるほどの申し込みがあった。事業に参加した児童生徒からは、英語の学習に対する高い意欲が伺えた。</p>																																																
今後の方針	<p>教科の学習に興味・関心をもたせ、学力を更に伸ばしていくことは、確かな学力の向上を目指す本市の重点課題である。参加人数が伸び悩んでいる事業については内容の見直しを進めたり、各事業の内容の充実を図ったりするとともに、事業を更に周知することで、より多くの児童生徒が目的をもって事業に参加し、児童生徒の学力向上につながるよう努めたい。</p>																																																



イングリッシュ・サマースクールの様子


事業名	英語教育指導事業（取組 1-1-2）																								
事業の目的	英語に興味や関心をもち、英語学習に意欲的に取り組む児童生徒を育成するため、ALT（英語指導助手）を招致し、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。																								
実施状況	<p>ALTとして直接雇用、JET-ALTを84人任用し、小学校58人、中学校25人、高校1人を配置し、英語を通したコミュニケーション能力の育成に努めた。</p> <p>◆ALTの配置数</p> <table border="1" data-bbox="365 575 900 775"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>63人</td> <td>63人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ALTによる延べ授業時間数</p> <table border="1" data-bbox="355 869 900 1068"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>44,060時間</td> <td>38,380時間</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>49,770時間</td> <td>50,192時間</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>47,300時間</td> <td>50,062時間</td> </tr> </tbody> </table>  <p>ALTを活用した小学校での授業の様子</p>	年度	目標	実績	28年度	63人	63人	29年度	84人	84人	30年度	84人	84人	年度	目標	実績	28年度	44,060時間	38,380時間	29年度	49,770時間	50,192時間	30年度	47,300時間	50,062時間
年度	目標	実績																							
28年度	63人	63人																							
29年度	84人	84人																							
30年度	84人	84人																							
年度	目標	実績																							
28年度	44,060時間	38,380時間																							
29年度	49,770時間	50,192時間																							
30年度	47,300時間	50,062時間																							
評価検証	<p>平成29年度にすべての小学校、中学校、高等学校へのALTの配置が完了した。</p> <p>小学校では、担任等とALTとのチームティーチングを通して、英語や外国の文化・習慣に慣れ親しみ、コミュニケーションへの興味・関心の高揚を図った。</p> <p>中学校では、英語担当教員とALTとのチームティーチングを通して、生徒の実践的コミュニケーション能力や積極的にコミュニケーションをしようとする態度の育成とともに、英語担当教員の指導力の向上を図った。</p> <p>また、ALTの研修を充実させ、ALTの指導力の向上を通して外国語活動の充実を図ることができた。</p>																								
今後の方針	<p>英語に興味・関心をもち、英語の活動や学習に意欲的に取り組み、英語を用いたコミュニケーション能力の基礎を身に付けた児童生徒を育成するために、ALTの研修を重ね、質の向上に努めるとともに、小中高等学校における英語教育の充実を図っていく。特に、小学校における英語教育の教科化に対応し、教科書対応の指導計画を作成し、英語教育を適切に推進していく。</p>																								




事業名	高崎市学力アップ推進事業（取組 1-1-2・1-1-5）																														
事業の目的	各学校区において、地域運営委員会による学習会や9地区での中学生休日学習相談ステーションを開催し、保護者や地域、学生など地域の教育力を活用して、放課後や休日を利用した児童生徒の学力向上に向けた取組を推進する。																														
実施状況	<p>市内すべての小中学校区において、地域運営委員会を開催した。地域の教育力を活用し、児童生徒に対し、放課後や土曜日等に学習の時間と場所を提供し、各学校区で、学力向上対策の学習会を実施した。また、4月と2月には、地域運営委員会の代表を集めた全体会を実施し、取組状況について情報交換したり、それぞれの地域運営委員会で抱える課題について話し合ったりする場を設けた。更に、定期的に進捗状況を調査し、各地域運営委員会の状況を把握するとともに、平成31年度に向けた市全体での体制の整備を行った。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションについては、毎週日曜日の午後1時30分～4時30分の間、市内9つの公民館等を利用し、5月から2月末まで市内中学在校生なら誰でも参加できる学習の場を提供している。講師は大学生等のボランティアが務め、数学・英語の教科について学習の相談を行っている。</p> <p><b>◆地域運営委員会開催回数</b></p> <table border="1" data-bbox="357 976 778 1173"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>各校2～4回</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>各校2～4回</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>各校2～4回</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: right;">学習会の様子</p> <p><b>◆学力アップ大作戦参加児童生徒数及び延べ開催回数</b></p> <table border="1" data-bbox="357 1272 948 1424"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>77,854人</td> <td>2,521回</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>74,296人</td> <td>2,467回</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>◆学力アップ大作戦参加ボランティア人数</b></p> <table border="1" data-bbox="357 1527 719 1680"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>20,723人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>20,638人</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>◆中学生休日学習相談ステーション生徒参加人数</b></p> <table border="1" data-bbox="357 1765 719 1917"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>491人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>458人</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: right;">中学生休日学習相談ステーション</p>		年度	実績	28年度	各校2～4回	29年度	各校2～4回	30年度	各校2～4回	年度	実績	実績	29年度	77,854人	2,521回	30年度	74,296人	2,467回	年度	実績	29年度	20,723人	30年度	20,638人	年度	実績	29年度	491人	30年度	458人
年度	実績																														
28年度	各校2～4回																														
29年度	各校2～4回																														
30年度	各校2～4回																														
年度	実績	実績																													
29年度	77,854人	2,521回																													
30年度	74,296人	2,467回																													
年度	実績																														
29年度	20,723人																														
30年度	20,638人																														
年度	実績																														
29年度	491人																														
30年度	458人																														
評価検証	平成25年度から準備を始めた本事業は、地域運営委員会を中心に、学習ボランティアの確保、会場の環境整備、使用教材の検討等、具体的な細かい内容について																														


	<p>整備し、26年度からすべての学校区で開始し、30年度も順調に推進することができた。児童生徒は、各学校区での学習会に多数参加することができた。また、すべての学校区の地域運営委員会の代表を集めて全体会を開催し、情報交換したことにより、それぞれの地域運営委員会が抱える課題の解決が進められた。更に、進捗状況を定期的に調査することで、各地域運営委員会への支援体制が確立できた。</p> <p>平成27年度から開始した中学生休日学習相談ステーションは、すべての地区で実施できるよう市内の公民館を数回ずつローテーションで実施したところ、会場によって参加数に差が見られた。28年度より7箇所の会場を固定し、2箇所はローテーションとして、9つの公民館等で実施した。30年度より9箇所の会場をすべて固定した。その結果、行くべき場所がはっきり生徒に伝わり、参加・利用がしやすくなった。</p>
<p>今後の方針</p>	<p>学力アップ大作戦は、平成29年度から、より地域の実情に応じて事業を実施できるよう、地域運営委員会に委託して事業を実施している。今後も更に、児童生徒の確かな学力の向上に向けて、地域や家庭との連携を更に進め、地域の教育力を生かして、取組内容の充実を図っていく。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションは、ボランティア講師の確保が急務であり、大学生を中心に呼びかけを行っていく。また、より多くの生徒が参加できるよう、各中学校からの積極的な呼びかけを求めていく。</p>




事業名	いじめ防止対策事業（取組 1-1-3）								
事業の目的	児童生徒が安心して生活できる学校づくりを目指して、いじめ防止に焦点を当てた教育活動を推進する。								
実施状況	<p>平成24年度から「いじめ防止プログラム」による取組を小中高一斉に行ってきた。</p> <p>教育委員会では、以下の取組等を推進してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止担当教諭研修会（年間2回）の実施</li> <li>・いじめ防止推進会議の開催</li> <li>・子どもを対象とした「いじめ防止子ども会議」「中学生リーダー研修会」</li> <li>・いじめ防止缶バッジの作成・配布</li> </ul> <p>これらの取組により、子どもたちがいじめのもつ問題性に気付き、いじめをなくすにはどうしたらよいかを考えることを通して、子ども一人ひとりの規範意識の醸成を図り、いじめの未然防止に結び付けている。</p> <p>◆いじめ認知後1か月以内の解消率</p> <table border="1" data-bbox="395 1041 778 1243"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>66%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>84%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>30年度 中学生リーダー研修会 「BE A HERO PROJECT」</p>	年度	実績	28年度	66%	29年度	71%	30年度	84%
年度	実績								
28年度	66%								
29年度	71%								
30年度	84%								
評価検証	<p>いじめが認知された場合、迅速かつ的確な対応が求められる。被害者の心身に苦痛を与えている行為が、一刻も早く止むよう学校職員を始め関係職員は他の業務に優先して対策を行うべきであるが、表面的な事象のみを捉えいじめが解消したとされ、その後の対応がなされない状況があってはならないことから、被害者に寄り添ったきめ細かな対応を行うとともに、経過の観察に細心の注意を払う必要がある。このことから、ケースによっては1か月以内で解消しないことがあり実績値に反映しない場合もある。</p>								
今後の方針	<p>社会背景の複雑な変化に伴い、いじめはインターネット上の表面化しにくい事象や、発達に障害を抱えた子どもがかかわる事象、海外から帰国した子どもや外国人の子どもがかかわる事象、性同一性障害や性的指向・性自認にかかわる事象、災害により被災した子どもまたは避難している子どもに対する事象等、その内容は多様化・複雑化している。</p> <p>いじめの未然防止及び早期発見・早期解消のためには、これらの事象に対する理解を深め対応スキルの向上を図ることや、子どもの小さな変化を見逃さない研ぎ澄まされた感覚を高めることが必要である。こうした内容に関する教職員研修をより充実させる必要がある。</p>								

事業名	やるベンチャーウィーク推進事業（取組1-1-4）																				
事業の目的	生きる力、豊かな心を育成するため、中学2年生を対象に地域や自然の中での職場体験や福祉ボランティア体験など、生徒の関心に応じた体験活動を実施する。																				
実施状況	<p>市内すべての中学2年生を対象とし、自己の生き方を探求する場として、月曜日から金曜日までの連続した5日間、延べ1,086事業所において、キャリア教育の考え方を取り入れながら、職場体験や福祉・ボランティア体験、地域の文化体験などの活動を実施した。</p> <p>◆参加生徒数</p> <table border="1" data-bbox="368 611 852 808"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>3,248人</td> <td>3,283人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>3,260人</td> <td>3,240人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>3,215人</td> <td>3,114人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 904 852 1102"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>99%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>やるベンチャーでの活動の様子</p>	年度	目標	実績	28年度	3,248人	3,283人	29年度	3,260人	3,240人	30年度	3,215人	3,114人	年度	実績	28年度	99%	29年度	99%	30年度	99%
年度	目標	実績																			
28年度	3,248人	3,283人																			
29年度	3,260人	3,240人																			
30年度	3,215人	3,114人																			
年度	実績																				
28年度	99%																				
29年度	99%																				
30年度	99%																				
評価検証	<p>参加した生徒3,114人を対象に行った実施後のアンケートでは、参加生徒の99%が目標を達成できたと感じている。また、活動を通して「働く・活動することの大変さ」、「挨拶や礼儀・マナーの大切さ」、「働いている人の使命感や責任感」、「働く・活動することの楽しさ」を学べたと答えている。「やるベンチャーウィーク」での体験活動を実施したことは、礼儀正しさや働くことの意義など自己の生き方を探求する場として有効であった。</p>																				
今後の方針	<p>地域や事業所の人々と触れ合う中で、人間性や社会性、将来に向けた夢等を育むために実施されている事業である。今後も地域の事業所と連携して、職場体験や農業体験、福祉ボランティア体験、地域の文化体験等を推進し、「生きる力」、「豊かな人間性や社会性」の育成を図っていく。</p>																				

事業名	「気になる子」対策事業（取組1-1-4）																				
事業の目的	幼稚園において特別な支援を必要とする「気になる子」の教育環境の充実を図り、きめ細やかな教育に対応するための各園の取組を支援する。																				
実施状況	<p>気になる子対策補助金（私立幼稚園）</p> <p>市内の私立幼稚園に対し、以下のとおり助成した。認定こども園に移行した幼稚園があるため、園数は減少している。</p> <p>◆助成した園数と金額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>園数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>20園</td> <td>16,980,000円</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>19園</td> <td>15,540,000円</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>15園</td> <td>12,600,000円</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校支援員の配置（公立幼稚園）</p> <p>幼児一人ひとりが楽しく有意義に園生活が送れるよう、支援を必要とする幼児に寄り添ったり、学級又は学年全体の中で困っている幼児の援助をしたりと各園の実態に応じ、活用されている。</p> <p>◆学校支援員配置数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	園数	金額	28年度	20園	16,980,000円	29年度	19園	15,540,000円	30年度	15園	12,600,000円	年度	実績	28年度	12人	29年度	12人	30年度	12人
年度	園数	金額																			
28年度	20園	16,980,000円																			
29年度	19園	15,540,000円																			
30年度	15園	12,600,000円																			
年度	実績																				
28年度	12人																				
29年度	12人																				
30年度	12人																				
評価検証	<p>私立幼稚園における「気になる子」への対応として、教職員の配置人数の増員や少人数クラス編成等が行われており、保育環境の充実が図られている。</p> <p>公立幼稚園では、学校支援員の活用により、特別な支援を必要とする幼児の園生活上の問題解決と遊びや生活指導の充実が図られた。教員以外の人員配置により、園の実情に応じた必要な形で幼児への支援がなされている。</p>																				
今後の方針	<p>障害の有無にかかわらず、一人ひとりの幼児に応じた支援や指導の必要性及び重要性が増している。今後も引き続き、本事業を実施し、私立幼稚園における保育環境の充実を図っていく。また、公立幼稚園においては、学校支援員の計画的な活用や資質の向上を図っていく。</p>																				


事業名	読書活動推進事業（取組 1-1-4）																					
事業の目的	<p>学校図書館の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能を充実させるために、全小・中・特別支援学校に学校図書館指導員を配置し、学校での読書活動を支援し、学校図書館を活用した学習活動を推進する。</p>																					
実施状況	<p>平成20年告示の学習指導要領で、学校図書館への読書センター、学習・情報センターとしての機能がこれまで以上に求められたことを受け、23年度から各学校図書館の機能をさらに高めるため、市の臨時職員として「学校図書館指導員」を全校に配置している。</p> <p>「学校図書館指導員」は、校長の指揮監督の下、学校図書館における図書の受入れ及び整理、児童生徒への図書の貸出し及び返却、学校図書館及び準備室の環境整備、読書活動の支援及びレファレンスなどを行っている。</p> <p>◆学校図書館利用頻度（月ごと）</p> <table border="1" data-bbox="357 766 778 1111"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0回</td> <td>3.6%</td> <td>30.6%</td> </tr> <tr> <td>1～2回</td> <td>12.7%</td> <td>30.6%</td> </tr> <tr> <td>3～5回</td> <td>38.7%</td> <td>21.5%</td> </tr> <tr> <td>6～9回</td> <td>13.7%</td> <td>3.9%</td> </tr> <tr> <td>10～19回</td> <td>20.1%</td> <td>9.9%</td> </tr> <tr> <td>20回以上</td> <td>11.2%</td> <td>3.5%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>児童が授業で作成した帯がつけられた本が並ぶ学校図書館</p>		小学生	中学生	0回	3.6%	30.6%	1～2回	12.7%	30.6%	3～5回	38.7%	21.5%	6～9回	13.7%	3.9%	10～19回	20.1%	9.9%	20回以上	11.2%	3.5%
	小学生	中学生																				
0回	3.6%	30.6%																				
1～2回	12.7%	30.6%																				
3～5回	38.7%	21.5%																				
6～9回	13.7%	3.9%																				
10～19回	20.1%	9.9%																				
20回以上	11.2%	3.5%																				
評価検証	<p>各小中学校を対象とした上記アンケート調査からは、小学生の80%以上が週に1回以上の頻度で学校図書館を利用していることがわかる。各学校においては、職員や図書委員によるおすすめ本の紹介を始め、ビブリオバトル、ブックトークなど学校図書館指導員を核として多岐にわたる取組が行われている。その成果として、本を読むことが好きかという設問には、小学生の88%、中学生の79%が「好き」「どちらかといえば好き」と回答しており、読書活動が推進されていると考えられる。</p>																					
今後の方針	<p>平成29年告示の学習指導要領では、「学習・情報センター」としての役割がより一層求められるようになった。また、複数の教科の学習指導要領で授業における新聞の活用が謳われている。今後も環境整備と情報提供を進めるとともに、学校図書館指導員の研修機会をさらに充実させていきたい。</p>																					


事業名	学校・家庭・地域連携事業（取組 1-1-5）																									
事業の目的	学校評議員制度を活用し、地域住民や保護者、有識者などの意見を広く取り入れることによって、開かれた学校づくり、魅力ある学校づくりを推進していく。																									
実施状況	<p>開かれた学校づくり、魅力ある学校づくりを目的として、地域の方々、保護者、有識者から地域との連携のあり方など広く意見を聞くため、平成30年度は公募による評議員の人選を27校（園）が実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">◆学校評議員会出席者数</th> <th colspan="2">◆学校評議員会実施割合</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>2,350人</td> <td>2,127人</td> <td>28年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>2,184人</td> <td>2,034人</td> <td>29年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>2,100人</td> <td>2,086人</td> <td>30年度</td> <td>96%</td> </tr> </tbody> </table>	◆学校評議員会出席者数			◆学校評議員会実施割合		年度	目標	実績	年度	実績	28年度	2,350人	2,127人	28年度	96%	29年度	2,184人	2,034人	29年度	96%	30年度	2,100人	2,086人	30年度	96%
◆学校評議員会出席者数			◆学校評議員会実施割合																							
年度	目標	実績	年度	実績																						
28年度	2,350人	2,127人	28年度	96%																						
29年度	2,184人	2,034人	29年度	96%																						
30年度	2,100人	2,086人	30年度	96%																						
評価検証	公募による人選を実施した27校（園）をはじめ、市内各校で地域や保護者の代表、有識者等からなる学校評議員会を開催し、開かれた学校づくりや魅力ある学校づくりを目指し、広く意見を聞くことができた。また、多くの学校で学校評価のうち学校関係者評価にかかわっていただき、学校教育の改善・充実に向けて意見を聞くことができた。																									
今後の方針	地域と連携した教育の推進は、今日的な重要課題である。今後も引き続きこの事業を推進し、子どもたちに生きる力を育むため、学校・家庭・地域社会の連携を図っていく。																									

事業名	学校教育力向上対策事業（取組 1-1-6）												
事業の目的	子どもたちの生きる力を育成するため、人権教育講演会、先進校調査研修、体験的教員研修等を開催し、教職員の質的向上を図る。												
実施状況	<p>平成30年8月8日、聖路加国際病院小児科顧問細谷亮太氏を講師として招き「子どもたちのいのち」という演題で市内全教職員を対象に人権教育講演会を開催した。</p> <p>先進校調査研修として、教諭4名が富山市内の小・中学校で6月20日から22日までの3日間研修を行った。先進校での研修を市内の教職員に還元するため、幼小中連絡協議会や校内研修等で報告を行った。</p> <p>先進校調査研修を今後の教育実践に生かすため、研修の成果を研修報告としてまとめ、市内の幼・小・中・特別支援学校に送付した。</p> <p><b>◆研修参加者数</b></p> <table border="1" data-bbox="359 795 837 996"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>1,700人</td> <td>1,704人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>1,750人</td> <td>1,790人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>1,700人</td> <td>1,718人</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">人権教育講演会の様子</p>	年度	目標	実績	28年度	1,700人	1,704人	29年度	1,750人	1,790人	30年度	1,700人	1,718人
年度	目標	実績											
28年度	1,700人	1,704人											
29年度	1,750人	1,790人											
30年度	1,700人	1,718人											
評価検証	<p>人権教育講演会は、「子どもたちのいのち」と題して、講師自身の医療現場での体験を基に命の重さについてお話しいただいた。小児ガンに冒されながらも互いに思いやる子どもたちの姿に、参加した教職員は衝撃を受けると共に、人を思いやる気持ちを学校教育の中で育てていく決意を新たにすることができた。</p> <p>先進校調査研修では、中堅的な立場にある教員を県外の実践校や地元の企業・福祉施設等で研修させることを通して、教員としての資質・能力の向上を図るとともに、研修の成果を学校・園経営や校・園内研修に生かすことができた。</p>												
今後の方針	本市の未来を担う子どもたちに生きる力を育成するため、教職員研修を質的に充実させ、教職員の資質向上を図っていく。												



事業名	通級指導教室推進事業（取組1-1-7）																								
事業の目的	支援を必要とする児童生徒に通級指導教室において、障害の軽減・改善に向けた指導を実践する。また、保護者や担任への相談活動を充実していく。																								
実施状況	<p>心身に軽度の障害（言語、聴覚、情緒、LD、ADHD、自閉症スペクトラム等の発達障害）がある幼児、児童生徒に対して、障害の程度や特質等を把握し、その軽減と改善を図るための指導・援助を市内5教室（中央教室、中居教室、金古教室、下室田教室、城山教室）で実施した。</p> <p>◆改善により退級した児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>76人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>66人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆通級児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>中学生</th> <th>小学生</th> <th>幼児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>55人</td> <td>452人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>67人</td> <td>499人</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>68人</td> <td>572人</td> <td>51人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	28年度	84人	29年度	76人	30年度	66人	年度	中学生	小学生	幼児	28年度	55人	452人	31人	29年度	67人	499人	45人	30年度	68人	572人	51人
年度	実績																								
28年度	84人																								
29年度	76人																								
30年度	66人																								
年度	中学生	小学生	幼児																						
28年度	55人	452人	31人																						
29年度	67人	499人	45人																						
30年度	68人	572人	51人																						
評価検証	通級による指導により、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じて、障害の軽減・改善のための指導が行われた。通常の学級における授業においてもこの指導の効果が期待できる。																								
今後の方針	通常学級に在籍する心身に軽度の障害（言語・聴覚・情緒・LD・ADHD・自閉症スペクトラム等の発達障害）のある児童生徒で通級の指導を望む数は年々増加している。今後もこの事業を推進することで、特別な支援を必要とする児童生徒の障害の軽減・改善を図っていく。																								

事業名	教育調査研究・研修事業（取組 1-1-8・1-1-9）								
事業の目的	学校教育に関連する様々な教育課題に対する調査研究や課題解決に向けた研修を実施し、教職員の資質の向上を図る。								
実施状況	<p>高崎市教育センター教職員研修基本構想に基づき、法定研修（初任者研修、中堅教諭資質向上研修）のほか、2年目研修、3年目研修、5年目研修、15年目研修、20年目研修、情報管理研修、校内研修主任研修、新任生徒指導主任・主事研修、学力向上研修、OJT推進リーダー研修、特別支援教育研修、人権教育研修、学校経営研修、夏季特別研修、夏季パソコン研修等を実施した。</p> <p>◆「充実した研修内容である」と 答えた受講者数の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">初任者研修講座</p>	年度	実績	28年度	96%	29年度	95%	30年度	95%
年度	実績								
28年度	96%								
29年度	95%								
30年度	95%								
評価検証	受講後のアンケートでは95%の講座受講者が、研修内容に満足していると答えている。								
今後の方針	研修のニーズを的確に把握し、人材育成研修システムに基づいた質の高い研修講座を実施することで、教職員の資質の向上をより図っていく。								

事業名	適応指導教室推進事業（取組 1-1-8）								
事業の目的	不登校児童生徒を対象に学習指導や体験活動、定期的な保護者への面談、在籍校との連携等を実施し、学校復帰及び社会的自立が図れるよう支援していく。								
実施状況	<p>市内8教室において、指導員（嘱託職員）19人とボランティア指導員7人で、学校・保護者と連携を図りながら、不登校児童生徒の学校復帰及び社会的自立を目指し、各教室での学習指導、カウンセリングや、合同行事である野外炊飯やものづくり体験学習、社会科体験学習等の体験活動などの適応指導を行った。</p> <p>◆週一日以上学校へ登校できた児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">社会科体験学習</p>	年度	実績	28年度	21人	29年度	21人	30年度	36人
年度	実績								
28年度	21人								
29年度	21人								
30年度	36人								
評価検証	平成30年度市内小中学校の不登校児童生徒567人のうち、88人が適応指導教室へ通室し、36人が学校へ復帰することができた。								
今後の方針	適応指導教室で子どもの支援にあたる指導員の研修の充実と小・中学校との連携を図り、子どもと保護者の心に寄り添ったスキルの高いきめ細かい支援を行う。								



点検・評価シート

施策の視点	1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成 《高崎経済大学附属高等学校に関する取組》	担当課
		高崎経済大学 附属高等学校
取組	1-2-1 確かな学力の確立 1-2-2 キャリア教育の推進 1-2-3 国際理解教育の推進	

事業名	学力向上推進事業（取組1-2-1）																								
事業の目的	<p>確かな学力の確立のために、少人数学級による授業やシラバスに沿った授業を行うとともに、発展的・対話的な深い学びを実現するための時間を確保することで、中学校における普通教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じた高度な普通教育を行う。また、教員の授業指導力向上セミナー派遣等の取組を行い、授業改善による確かな学力の向上を図る。</p>																								
実施状況	<p>全学級が35人を基本としたクラス編成を行うとともに、選択制を取り入れた教育課程を編成し、発展的・補足的な学習を行った。また、シラバスに4回の定期考査の範囲も明記し、校訓にも謳われている「自学自習」の学習の目安として生徒に提示した。</p> <p>芸術コースの音楽系・美術系の生徒には、教員4人の他に18人の非常勤講師による専門教育を実施するとともに個別指導の充実を図っている。</p> <p>各教科から9名の教員が、予備校の主催する教員授業力向上セミナーに参加した。</p> <p>◆シラバスで学習する内容や目標を確認して授業に臨んでいる割合（生徒）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>31%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆学習内容が自分の進路や社会生活に役立つと考えている割合（生徒）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>76%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆授業で話し合ったり、自分の考えを発表したりしている割合（生徒）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>89%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>75%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆セミナー等への派遣が「役に立った」と答えた教員の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	29年度	40%	30年度	31%	年度	実績	29年度	90%	30年度	76%	年度	実績	29年度	89%	30年度	75%	年度	実績	29年度	100%	30年度	100%
年度	実績																								
29年度	40%																								
30年度	31%																								
年度	実績																								
29年度	90%																								
30年度	76%																								
年度	実績																								
29年度	89%																								
30年度	75%																								
年度	実績																								
29年度	100%																								
30年度	100%																								

評価検証	<p>グループ学習やペア学習等を取り入れた言語活動重視の授業や、実験・実習等を取り入れた体験活動重視の授業への改善を図り、引き続き、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力・表現力の向上を図ることができた。</p> <p>シラバスに沿った授業を確実に行うことで主体的な学習態度の育成に結び付けることができた。また、芸術コースの個別指導の充実により、生徒一人ひとりの感性を高めることができた。</p> <p>生徒へのアンケート結果から、更に生徒が主体的に学習することに充実感を持つようにするための取組が必要であると考えられる。</p> <p>教員の授業力向上セミナー参加では、教科指導力が向上し、実践的な技術を身に付けることができた。</p>
今後の方針	<p>思考力、判断力、表現力はもちろんのこと、学ぶ意欲や自ら学ぶ姿勢などを含めた確かな学力を育成するため、引き続き、各事業の推進を図る。</p>

事業名	キャリア教育推進事業（取組1-2-2）																				
事業の目的	<p>地域、産業界、大学等との連携を図り、体験活動を中心とした学習を積極的に取り入れることで、社会事象に対する興味・関心を高め、知識をもとに思考・判断する力、表現する力を身に付けさせるとともに、人間関係形成能力や自己管理能力、課題解決力、キャリアプランニング力等の基礎的・汎用的能力を身に付けることができるようキャリア教育を推進する。</p>																				
実施状況	<p>企業や大学の見学、活躍している社会人や職業人を講師とした講演会や体験活動を実施した。また、高崎経済大学との高大連携においては、大学の講義を受講する機会や、大学のゼミに参加して大学生と一緒に活動する機会を設けた。</p> <p>◆キャリア教育に係る体験学習の実施回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>45回</td> <td>44回</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>50回</td> <td>62回</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>44回</td> <td>54回</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆体験学習が「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	28年度	45回	44回	29年度	50回	62回	30年度	44回	54回	年度	実績	28年度	99%	29年度	100%	30年度	100%
年度	目標	実績																			
28年度	45回	44回																			
29年度	50回	62回																			
30年度	44回	54回																			
年度	実績																				
28年度	99%																				
29年度	100%																				
30年度	100%																				
評価検証	<p>キャリア教育は、高校生活に目的意識を持たせ、成長を支える基盤・原動力にもなっている。</p> <p>地域、産業界や大学等と連携した体験活動を中心とした学習により、生徒が自己を見つめるとともに、人間関係形成や自己管理、課題解決、キャリアプランニング等における基礎的・汎用的能力を身に付けることができた。また、大学との連携において「大学における学び」を体験することで、生徒一人ひとりが将来の目標を明確にすることができた。</p>																				
今後の方針	<p>今後もキャリア教育の一層の充実に努めていく。</p>																				

事業名	国際教育推進事業（取組1-2-3）																				
事業の目的	<p>学習指導要領に基づいて達成されるべき英語力の指標として実用英語能力検定（英検）を利用しながら、高校卒業時に必要なレベルの英語力が身につくようにする。</p> <p>また、海外研修等の海外における異文化体験を積むことで、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、同時代人としてのものの考え方や生活習慣、衣食住文化、社会制度や信条等を学び、異国の文化や伝統を尊重できる感覚を育成する。</p>																				
実施状況	<p>全校生徒が英検を受検する機会を設けた。</p> <p>◆英検準2級以上の取得者数(延べ人数)</p> <table border="1" data-bbox="368 622 852 824"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>615人</td> <td>794人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>670人</td> <td>867人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>800人</td> <td>849人</td> </tr> </tbody> </table> <p>海外派遣事業において、米国（ボストン）での語学研修に生徒28人を派遣した。韓国研修には生徒13人を派遣し、姉妹校である高尺高校と交流した。さらに、中国・香港研修にも生徒13人を派遣し、海外で事業展開をする日本企業の戦略を現地で学習した。</p> <p>◆海外派遣事業に参加したことが「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 1111 756 1308"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	28年度	615人	794人	29年度	670人	867人	30年度	800人	849人	年度	実績	28年度	100%	29年度	100%	30年度	100%
年度	目標	実績																			
28年度	615人	794人																			
29年度	670人	867人																			
30年度	800人	849人																			
年度	実績																				
28年度	100%																				
29年度	100%																				
30年度	100%																				
評価検証	<p>すべての生徒が英検を受検し、より上位の資格取得に取り組んだ。</p> <p>米国での研修では、ホームステイや現地語学学校での授業において、英語を上手く使えたり、使えなかったりした経験が、帰国後の英語学習に対する意欲の高まりにつながった。</p> <p>韓国研修では、ホームステイや高尺高校との交流、ソウル市内見学等の異文化体験を通して、異国の文化や伝統を尊重する感覚を育成することができた。</p> <p>中国・香港研修では、高崎市内等に本社を置く日本企業の海外戦略を、現地工場や事務所の見学等を通して学んだ。これにより、経済活動のグローバル化を実感するとともに、異なる文化や価値観、社会制度への理解を深めることができた。</p>																				
今後の方針	<p>国際化する社会に対応できる生徒の育成を目指して、海外派遣に参加しようとする生徒を増やすとともに、海外派遣で得られた成果を他の生徒に広げようとする生徒を増やし、継続して国際教育の充実を図る。</p> <p>また、引き続き、大学の推薦入試等で合否判定の材料の1つとなる英検2級の取得を目指そうとする意欲の向上に努める。</p>																				

点検・評価シート


施策の視点	2 子どもたちの心身の健康と体力の向上	担当課
		健康教育課
取組	2-1 心と体の健康づくり 2-2 体力の向上とじょうぶな体づくり 2-3 自ら身を守る交通安全教育の推進と安全な通学路の確保 2-4 魅力ある学校給食づくり 2-5 自然体験活動を通じた豊かな心の育成	

事業名	児童生徒等健康管理対策事業（取組2-1）									
事業の目的	児童生徒等の健康の保持増進を図るため、疾病・異常を早期に発見し保健教育を実施し治療を促進する。健康診断をすることにより、自己の健康課題に気づき、自ら考え、行動し、心身ともに健康で明るい生活を送れるようにする。									
実施状況	幼児、児童、生徒及び教職員の健康管理の一環として、学校医等による健康診断ならびに専門機関による検診（貧血検査・尿検査・心臓検診・総コレステロール検査等）を実施し、その結果を受けて保健上必要な指導助言（治療勧告）や保健指導を行った。  <b>◆永久歯う歯及び歯肉炎等治療完了者率</b> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">29年度</td> <td>小学校 96.6%</td> </tr> <tr> <td>中学校 90.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30年度</td> <td>小学校 96.4%</td> </tr> <tr> <td>中学校 90.2%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	実績	29年度	小学校 96.6%	中学校 90.0%	30年度	小学校 96.4%	中学校 90.2%
年度	実績									
29年度	小学校 96.6%									
	中学校 90.0%									
30年度	小学校 96.4%									
	中学校 90.2%									
評価検証	健康診断・検査の受検率はほぼ100%であり、未受検者については入院等のやむを得ない事情のものがほとんどである。各学校園においては、健康診断や検査の結果を受け、事後の保健指導を行っている。また、学校医等の協力を得て、行事前に臨時の健康診断や経過観察歯科健康診断を実施するなどの健康管理対策をとっている。									
今後の方針	学校等から働きかけをすることにより、保護者の協力を得て対象者全員の受検を実現する。また、学校医等と連携し、健康診断の結果を児童生徒等の健康管理や保健教育に活用し、児童生徒等の心身ともに健康な生活の実現を目指す。									

事業名	学校保健充実事業（取組 2-1）																		
事業の目的	助産師による「命の大切さ」出前授業や専門家による性教育講演会、薬物乱用防止講演会、「エイズデーin たかさき」への参加を実施し、豊かな人間性をはぐくみ、生涯を通じて健康な生活を営む児童生徒の育成を図る。																		
実施状況	<p>豊かな心と健康な体づくりの一環として、健康教育の今日的課題に対応するため、専門家の講演や体験活動により、正しい知識を身に付け、自己の日常の生活に生かせるよう、学校において保健計画に位置づけられた継続的な実施を目指している。助産師会、ボランティア団体、学校医等の協力により、前年より多くの学校で実施できた。</p> <p>◆助産師による授業・性教育講演会実施校数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>50校</td> <td>53校</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>50校</td> <td>55校</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆薬物乱用防止講演会実施校数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>60校</td> <td>56校</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>65校</td> <td>57校</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	29年度	50校	53校	30年度	50校	55校	年度	目標	実績	29年度	60校	56校	30年度	65校	57校
年度	目標	実績																	
29年度	50校	53校																	
30年度	50校	55校																	
年度	目標	実績																	
29年度	60校	56校																	
30年度	65校	57校																	
評価検証	<p>実施を希望する学校が増加している講師派遣事業については、予算維持に努め、実績の拡大を図っている。</p> <p>助産師でつくる『とらうべの会』による「命の大切さ」出前授業については、毎年継続して実施希望の学校が多いため、とらうべの会の先生方と日程を調整し、年々増加させている。</p>																		
今後の方針	<p>性教育、薬物乱用防止教育は、今日的かつ緊急的な課題であるため、受講学校数を増加できるよう多面的に働きかけていく。特に薬物乱用等の低年齢化に伴い、正しい知識と適切な判断ができるよう、小学校の薬物乱用防止教室の拡充を図り、保健所やライオンズクラブ等の関係機関と連携し、学校への支援を行いたい。</p> <p>また、予算等の関係から、隔年で実施する学校も多いが、より大きな成果を得られるように継続的に実施できるように働きかけていく。</p>																		

事業名	部活動充実事業（取組 2-1）																		
事業の目的	高崎市立中学校に部活動指導員を配置し、部活動の充実及び円滑な運営を図るとともに、部活動指導を行う教員の支援を行う。																		
実施状況	<p>高崎市内の各中学校 25 校に 1 名ずつ部活動指導員を配置することや各中学校のニーズに応じた外部指導者の派遣により、部活動の質的向上や教職員の負担軽減を図るとともに、「高崎市の部活動の運営について」の徹底を図り、各中学校の実情に合わせた望ましい部活動の推進に努めた。</p> <p>◆部活動指導員配置人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30 年度</td> <td>25 人</td> <td>25 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆運動部への外部指導協力者派遣事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28 年度</td> <td>70 人</td> <td>58 人</td> </tr> <tr> <td>29 年度</td> <td>70 人</td> <td>57 人</td> </tr> <tr> <td>30 年度</td> <td>70 人</td> <td>57 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	30 年度	25 人	25 人	年度	目標	実績	28 年度	70 人	58 人	29 年度	70 人	57 人	30 年度	70 人	57 人
年度	目標	実績																	
30 年度	25 人	25 人																	
年度	目標	実績																	
28 年度	70 人	58 人																	
29 年度	70 人	57 人																	
30 年度	70 人	57 人																	
評価検証	部活動指導員の配置や運動部活動における外部指導者派遣により、部活動の指導や勤務時間の軽減等の教職員の負担軽減が図られるとともに、各種目の専門性を生かした部活動指導が行われ、部活動の質的向上に努めることができた。																		
今後の方針	平成 31 年度は、部活動指導員の大幅増員を図り各学校に 3 名配置し、更なる教職員の負担軽減や業務の効率化に努める。また、研修会等の実施により、部活動指導員や外部指導者の質的向上を図り、望ましい部活動の推進を図る。																		




事業名	学校体育充実事業（取組 2-2）								
事業の目的	生涯を通して運動に親しむ心を養うとともに、各種競技大会の開催や新体力テストの実施、中体連等への支援を行い、児童生徒の体力の向上に努める。								
実施状況	<p>運動を通して身に付けたい力を明確にした授業づくりによる体育授業の質的向上や新体力テストの実施を通して、進んで体力向上に取り組む児童生徒の育成に努めた。</p> <p>◆新体力テストの実施者数(小学校5・6年生及び中学校1～3年)</p> <table border="1" data-bbox="395 488 1114 719"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>16,596人【実施率98%】</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>16,381人【実施率99%】</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>16,033人【実施率99%】</td> </tr> </tbody> </table> <p>小学校の各種大会（陸上・水泳）や体操演技会を通して、進んで運動に取り組む児童の育成に努めた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">小学校体操演技会</p> <p>中体連各大会における運営への協力や群馬県大会および関東・全国大会における選手の派遣に向けた支援に努めた。</p>	年度	実績	28年度	16,596人【実施率98%】	29年度	16,381人【実施率99%】	30年度	16,033人【実施率99%】
年度	実績								
28年度	16,596人【実施率98%】								
29年度	16,381人【実施率99%】								
30年度	16,033人【実施率99%】								
評価検証	<p>学校訪問指導を通して、基礎基本を一斉指導で児童生徒全員に履修させ、その力をもとに子どもが自己の課題に主体的に取り組む授業改善が図られている。また、新体力テストが各校で適切に実施されるよう、マニュアルの作成や啓発に努めることができた。</p> <p>小学校の各種大会では、大会はもちろん、校内練習会を通して、できる喜びを味わうことで、運動好きな児童の育成を図ることができた。</p> <p>中体連の大会運営や選手の派遣等、各学校や中体連のニーズに対応した支援を行うことができた。</p>								
今後の方針	<p>小学校の全教員を対象とした体育実技講習会や若手教員の教師力向上を図る研修会等により、児童ができる喜びを味わえるよう、体育の授業改善を図る。</p> <p>小学校では、全学年の実施となった新体力テストの結果を踏まえ、学校課題の解決に向けた取組の充実を図る。</p> <p>中体連と連携した取組の改善や充実を図り、生徒の自主的な活動を支援する体制づくりに努める。</p>								

事業名	交通教室事業（取組 2-3）																																				
事業の目的	交通法規や自転車実習による交通教室を開催し、自分の命は自分で守る交通安全教育を推進する。																																				
実施状況	<p>和田橋交通公園では、市内の小学校3年生全員と、希望のある学校については他の学年も対象に「交通安全教室」を実施した。「交通事故ゼロ」を目指し、自転車の乗り方や交通ルールを中心に学習している。</p> <p>また、夏休みを利用して、自転車に乗れない小学校1年生を対象に「親子自転車教室」を実施した。</p> <p>◆自転車事故発生率/交通事故総数(小学生)</p> <table border="1" data-bbox="405 622 1129 808"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>30% / 45件</td> <td>39% / 56件</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>30% / 45件</td> <td>46% / 57件</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>30% / 45件</td> <td>44% / 47件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆交通教室参加者数:3年生を含む総参加者数(実施回数)</p> <table border="1" data-bbox="405 898 1129 1084"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>11,000人</td> <td>8,047人(241回)</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>11,000人</td> <td>8,106人(237回)</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>10,000人</td> <td>7,948人(213回)</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆親子自転車教室参加者数</p> <table border="1" data-bbox="405 1173 1129 1359"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>40組</td> <td>34組</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>40組</td> <td>29組</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>40組</td> <td>41組</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	28年度	30% / 45件	39% / 56件	29年度	30% / 45件	46% / 57件	30年度	30% / 45件	44% / 47件	年度	目標	実績	28年度	11,000人	8,047人(241回)	29年度	11,000人	8,106人(237回)	30年度	10,000人	7,948人(213回)	年度	目標	実績	28年度	40組	34組	29年度	40組	29組	30年度	40組	41組
年度	目標	実績																																			
28年度	30% / 45件	39% / 56件																																			
29年度	30% / 45件	46% / 57件																																			
30年度	30% / 45件	44% / 47件																																			
年度	目標	実績																																			
28年度	11,000人	8,047人(241回)																																			
29年度	11,000人	8,106人(237回)																																			
30年度	10,000人	7,948人(213回)																																			
年度	目標	実績																																			
28年度	40組	34組																																			
29年度	40組	29組																																			
30年度	40組	41組																																			
評価検証	<p>小学生の自転車事故の主な原因は、飛び出しや一時停止不履行である。児童が自ら自分の命を自分で守ることや各学校が危機意識を持ち継続的に実効性のある安全教育を実施できるよう、情報提供や支援に努めていく必要がある。</p> <p>小学校3年生の交通安全教室では、映像資料を活用した交通ルールや自転車の危険走行の確認、自転車を正しく乗るための知識や技能の習得に向けた実技指導の充実に努めた。</p> <p>また、親子自転車教室では、自転車に乗れるよう指導するだけでなく、交通ルールやマナーなどの交通安全指導も行った。</p>																																				
今後の方針	<p>学校の交通安全指導を核として、道路交通法を念頭に、自転車事故の防止に向けた交通ルールやマナーの指導の充実を図る。また、警察や交通安全協会などの関係諸機関と連携した交通安全指導を推進するとともに、家庭の教育力向上に努める。</p> <p>和田橋交通公園の交通安全教室については、より効果的な交通安全教育が実践できるよう、指導方法や内容の改善に努める。</p>																																				



事業名	給食充実事業（取組 2-4）																								
事業の目的	学校給食において、地場農産物の積極的な活用や郷土料理の導入、栄養教諭・栄養士による食指導を実施することにより、児童生徒の健やかな成長と望ましい食習慣を形成していく。																								
実施状況	<p>新鮮で安全な食材の提供が可能となるだけでなく、地元の農産物生産者への支援、児童生徒の本市の農産物・農業への関心を高めることにも繋がることから、学校給食に地場農産物を積極的に使用している。また、児童生徒が食の重要性を知り、食について考えるきっかけとなるよう、栄養教諭・栄養士が給食時に教室を訪問して、献立や食材などに関する説明や食指導を行っている。</p> <p>◆給食における地場農産物使用率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>50%</td> <td>47.2%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>50%</td> <td>46.8%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>50%</td> <td>47.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆1ヶ月の栄養教諭・栄養士の給食時、教室訪問回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>18回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>18回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>15回</td> <td>11回</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	28年度	50%	47.2%	29年度	50%	46.8%	30年度	50%	47.4%	年度	目標	実績	28年度	18回	11回	29年度	18回	11回	30年度	15回	11回
年度	目標	実績																							
28年度	50%	47.2%																							
29年度	50%	46.8%																							
30年度	50%	47.4%																							
年度	目標	実績																							
28年度	18回	11回																							
29年度	18回	11回																							
30年度	15回	11回																							
評価検証	給食における地場農産物使用率は、前年に比べ増加させることができた。引き続き目標とする50%に到達するよう努めていきたい。また、栄養教諭・栄養士の給食時の教室訪問回数も目標に到達するよう努めていきたい。																								
今後の方針	<p>地場農産物の使用率は、気候の影響による農作物の生育・流通状況等、外的な要因の影響を受けることもあるが、仕入先の拡大や献立を更に工夫するなど、より多くの地場農産物が使用できるよう取組を進めていく。</p> <p>また、栄養教諭・栄養士が給食時に教室訪問を行えるよう、引き続き、各学校への働きかけや環境の整備を進めていく。</p>																								

事業名	給食運営事業（取組 2-4）															
事業の目的	安全・安心な給食を提供するため、調理器具等の更新を実施するとともに、食育の視点から給食残渣の削減に取り組む。															
実施状況	<p>調理器具等の状況を確認し、必要性の高いものから優先的に更新を行った。 各学校園における残渣から作られた堆肥量をもとに、年間の残渣を推定して一人一日分の残渣を算出した。</p> <p>◆児童生徒一日あたりの給食残渣</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>30 年度目標</th> <th>30 年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>58 g</td> <td>58 g</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>40 g</td> <td>43 g</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>66 g</td> <td>50 g</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>75 g</td> <td>34 g</td> </tr> </tbody> </table>	対象	30 年度目標	30 年度実績	幼稚園	58 g	58 g	小学校	40 g	43 g	中学校	66 g	50 g	特別支援学校	75 g	34 g
対象	30 年度目標	30 年度実績														
幼稚園	58 g	58 g														
小学校	40 g	43 g														
中学校	66 g	50 g														
特別支援学校	75 g	34 g														
評価検証	中学校及び特別支援学校の残渣は目標値より少なかった一方で、小学校では目標値より少し多かった。															
今後の方針	安全・安心な給食を提供するために、引き続き、古い調理器具等の更新を行っていく。また、食育の面からも、給食残渣を更に削減できるよう努めていく。															

事業名	小学生自然体験活動事業（取組 2-5）									
事業の目的	<p>榛名湖畔の素晴らしい自然環境を活用し、登山や野外炊飯などの自然体験活動を実施し、小学生の生きる力、豊かな心を育成する。</p>									
実施状況	<p>榛名湖畔にある「榛名林間学校榛名湖荘」での集団宿泊体験学習を市内小学校全 58 校が実施した。具体的な活動内容としては、榛名神社から天神峠までの登山、火床を囲んでダンス等を楽しむキャンプファイア、かまどで羽釜を使ってご飯を炊きカレーを作る野外炊飯、桜やつつじの枝でスプーンを作るクラフト活動、榛名湖畔を一周して自然を満喫するウォークラリー等の自然体験を中心として体験活動を実施した。各学校が児童の実態に応じて工夫した活動に取り組み、充実した宿泊体験学習を行った。</p> <p>◆林間学校参加児童数</p> <table border="1" data-bbox="395 748 879 891"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>校数</th> <th>児童数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29 年度</td> <td>58 校</td> <td>3,419 名</td> </tr> <tr> <td>30 年度</td> <td>58 校</td> <td>3,370 名</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">キャンプファイアの様子</p>	年度	校数	児童数	29 年度	58 校	3,419 名	30 年度	58 校	3,370 名
年度	校数	児童数								
29 年度	58 校	3,419 名								
30 年度	58 校	3,370 名								
評価検証	<p>本事業では、高崎市内の全 58 小学校の 5 年生が榛名湖畔での自然体験活動を通して、榛名地域の素晴らしい自然や文化財などに触れるとともに、地元の人々と触れ合うことで、子どもたちに生きる力と豊かな心を育むことができた。</p>									
今後の方針	<p>キャンプファイア場や野外炊飯施設等を生かしたプログラム等の充実を図り、児童が榛名地域の自然の素晴らしさを更に感じる事ができる事業としていく。</p>									

事業名	「健康教育」啓発事業（取組 2-1・2-2・2-3・2-4）
事業の目的	「21世紀を担う元気なたかさきっ子」を育てるため、本市における健康教育（学校保健・学校体育・学校給食）の取組を紹介する健康教育フェアを開催し、学校園における実践の様子について、パネル展示等を通して広報することにより、学校・家庭・地域の連携の必要性を市民とともに考えていく。
実施状況	<p>平成20年度より「健康教育フェア」を開催している。</p> <p>健康教育フェアでは、健康教育に関する学校の実践や学校給食について、また学校医・学校歯科医・学校薬剤師の活動をパネル展示等で紹介した。</p> <p>また、学校給食の紹介として試食コーナーを設け、学校給食を身近に考えてもらう機会を提供した。</p> <p>平成22年度より、市民の健康への関心を高めるため、軽スポーツや歯の健康チェック、簡易視力検査、目の体操、血圧測定等の体験コーナーを設けた。</p> <p>平成27年度より、パネル展示については市庁舎で、軽スポーツや握力測定、食育カルタ、食材つりゲームなどの体験コーナーは、健康課主催の「たかさき食育・健康フェスタ」の中で実施した。</p> <div data-bbox="1091 564 1465 909" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">健康教育フェア エイズパネル</p> <div data-bbox="411 987 928 1326" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">パネル展示</p> <div data-bbox="954 987 1449 1326" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">「たかさき食育・健康フェスタ」体験コーナー</p>
評価検証	<p>多くの市民に健康について関心を持ってもらおうと、市庁舎1階ロビーにて展示コーナーを設けた。パネル展示については、市庁舎を訪れる幅広い層の市民に展示物を見ていただく機会となり、健康教育には、学校・家庭・地域の連携が重要であることを広めることができた。</p> <p>また、軽スポーツや健康チェック等の体験コーナーは、健康課主催の「たかさき食育・健康フェスタ」の中で実施し、もてなし広場で行われる高崎市農業まつりと同日開催とすることで子どもからお年寄りまで幅広い世代の方に来場いただき、市民の健康への関心を高めることができた。</p>
今後の方針	<p>健康教育は、継続的な取組が大切であることから、幼稚園から高等学校まで幅広く働きかけていく。今後も市庁舎1階ロビーなど、多くの市民が訪れやすい会場で開催するとともに、健康課の「たかさき食育・健康フェスタ」とも連携して実施する予定である。パネル等の展示物の充実を図るとともに、多くの市民に来場してもらえるよう、広報や催し物の工夫をしていく。</p>

点検・評価シート

施策の視点	3 安全で多機能な教育環境づくりの推進	担当課
		教育総務課 健康教育課 高崎経済大学 附属高等学校
取組	3-1 安全・安心な学校づくり 3-2 多様で弾力的な活動を可能にする学校づくり 3-3 地域性を発揮させた学校づくり 3-4 環境にやさしい学校づくり	

事業名	箕輪小学校校舎改築事業（取組 3-1・3-2・3-3・3-4）					
事業の目的	老朽化した校舎の改築工事の実施					
実施状況	<p>耐力度調査の結果「改築が必要」と判定された校舎の改築工事を進めている。          &lt;校舎改築のポイント&gt;          ○市産木材を使用した、木造2階建ての校舎          ○多様な学習活動に対応できる多目的スペース、少人数教室の整備          ○屋根に太陽光発電を設置し、環境に配慮</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>仮設校舎</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>第一期校舎(完成)</p> </div> </div> <p>◆事業進捗率（事業費ベース）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>30年度目標</th> <th>30年度実績</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>50%</td> </tr> </table>		30年度目標	30年度実績	50%	50%
30年度目標	30年度実績					
50%	50%					
評価検証	全体的に計画どおり進捗している。					
今後の方針	<p>児童の安全確保に配慮し、計画的に改築工事を進める。</p> <p>◆事業進捗率（事業費ベース）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>30年度実績</th> <th>31年度目標</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>70%</td> </tr> </table>		30年度実績	31年度目標	50%	70%
30年度実績	31年度目標					
50%	70%					

事業名	学校施設改修事業（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園）（取組 3-1）
事業の目的	各学校園を巡回し、改修等の要望箇所を確認し、安全で快適な教育環境の維持管理を図る。
実施状況	「工事要望調査」等により、施設の状況を把握し、危険や不具合を感じる箇所の調査を行い、調査結果を基に外壁改修工事や教室の床改修工事等を実施した。
評価検証	施設の老朽化により各学校園からの要望も多くなってきているが、予算の範囲内で危険度の高いものから優先して改修を行った。 また、外壁改修工事や、教室床改修工事等を行い、校舎等の維持管理の向上に努めた。
今後の方針	各学校園からの要望や施設の点検結果を踏まえ、優先度の高いものから改修を行っていく。


事業名	学校施設整備事業（高等学校）（取組 3-1）
事業の目的	安全で快適な学習環境と、生徒が安心して学校教育活動に取り組める環境を創出するため、学校施設の計画的な整備や適切な維持管理に努め、高等学校教育の充実を目指す。
実施状況	施設の老朽化により補修箇所が年々増加しているため、危険な状態または学校運営上、重大な支障が生じる部位から優先的に補修を行った。
評価検証	予算の範囲内で、危険度及び必要性の高いものから優先して改修した。
今後の方針	老朽化の進行により、生徒の学習環境が悪化することが予想されるため、学校施設のより一層の適切な維持管理に努めるとともに、必要な修繕工事等を優先度の高いものから実施していく。

事業名	学校体育施設開放事業（取組 3-2）														
事業の目的	生涯スポーツの普及と推進を図るため、各種団体のスポーツやレクリエーション活動に対し、小中学校施設等の体育施設の積極的な開放を行う。														
実施状況	<p>学校体育施設開放については、各学校の校庭や体育館等の体育施設を活用して実施している。</p> <p>◆学校体育施設利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>655,000人</td> <td>619,745人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>650,000人</td> <td>603,350人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>620,000人</td> <td>667,167人</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標	実績	28年度	655,000人	619,745人	29年度	650,000人	603,350人	30年度	620,000人	667,167人
年度	目標	実績													
28年度	655,000人	619,745人													
29年度	650,000人	603,350人													
30年度	620,000人	667,167人													
評価検証	スポーツ施設の新設によるスポーツ環境の向上や利用団体の増加等により、利用回数および利用者が増加したものと考えられる。														
今後の方針	生涯スポーツの更なる普及・推進を図るため、引き続き制度の周知活動に力を入れていく。														




点検・評価シート


施策の視点	4 地域力を育む社会教育の充実	担当課
		社会教育課 中央公民館
取組	4-1-1 地域の教育力を活かした事業の推進 4-1-2 学社連携・融合による生涯学習の推進 4-1-3 人権文化の創造 4-1-4 家庭教育の振興 4-1-5 学習支援体制の整備 4-1-6 平和な社会生活の創造 4-1-7 地域の課題に対応した公民館事業の推進 4-1-8 社会教育施設の学習環境の整備	


事業名	地区推進体制整備事業（取組 4-1-1）													
事業の目的	学習者と地域をつなぐコーディネーターとしての役割を担っている生涯学習推進員の活動を支援し、地域住民の生涯学習推進と理念の普及を図る。													
実施状況	<p>◆生涯学習推進研究大会</p> <p>平成30年度は、第3ブロック六郷小学校区による「生涯学習の独自性を出すために～六郷小校区の取り組み～」、第6ブロック京ヶ島小学校区による「京ヶ島の歴史トリビア～文化財編～」、北部公民館主事による「北部公民館が経大生にこだわる理由～近くて遠い高経大～」のそれぞれの事例研究発表を行った。</p> <p>◆生涯学習推進員が関わった地域活動</p> <p>参加人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>16,000人</td> <td>15,685人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>16,000人</td> <td>17,046人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>16,000人</td> <td>16,541人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	28年度	16,000人	15,685人	29年度	16,000人	17,046人	30年度	16,000人	16,541人	 <p>生涯学習推進研究大会</p>
年度	目標	実績												
28年度	16,000人	15,685人												
29年度	16,000人	17,046人												
30年度	16,000人	16,541人												
評価検証	生涯学習推進研究大会は、生涯学習フェスティバルと同時開催することにより、多くの市民に生涯学習活動を始めのきっかけを提供している。推進員が関わった地域活動の参加人数は、前年度より減少しているものの、目標値を達成することができた。また、推進員連絡会議を開催し、各地域の活動状況や課題などを共有できた。推進員の活動が更に地域住民に理解されることが大切である。													
今後の方針	「私たちが創る『地域力を育む生涯学習社会』活動のてびき」や、「生涯学習推進員の手帖」を活用し、学校や公民館等の社会教育施設との連携を深め、参加者を増やせるように生涯学習を推進する。生涯学習推進員の役割や地域の特性を生かしながら、積極的に活動されている状況を明確にし、更なる活動支援を図る。													



事業名	公民館運営事業（取組 4-1-2・4-1-7）																									
事業の目的	地域の特色を生かした事業の企画と展開を通して、「心豊かな活力ある人づくり・地域づくり」を行う。																									
実施状況	<p>公民館主催事業については、次の4つを柱に展開している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフアップ推進事業－高齢者、健康、家庭教育、環境教育、防災・防犯、人権等の社会的な課題に関する学習機会を提供する事業</li> <li>2 キャリアデザイン支援事業－生きがいのある人生設計を考え、個々の能力や個性の開発に挑戦できる学習機会を提供する事業</li> <li>3 地域づくり支援・ボランティア養成事業－地域の伝統や文化をより発展させるための支援や活動ボランティアを養成する事業</li> <li>4 図書ボランティア活動支援事業－心豊かな子どもたちの成長を願い、公民館図書活動を充実させるための事業</li> </ol> <p>◆公民館利用者数</p> <table border="1" data-bbox="363 790 946 987"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>940,000人</td> <td>885,035人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>940,000人</td> <td>872,593人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>900,000人</td> <td>830,807人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆公民館主催事業への参加者数</p> <table border="1" data-bbox="363 1048 946 1245"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>130,000人</td> <td>128,545人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>130,000人</td> <td>129,636人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>130,000人</td> <td>115,992人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>北カフェでの交流の様子（北公民館）</p>		年度	目標	実績	28年度	940,000人	885,035人	29年度	940,000人	872,593人	30年度	900,000人	830,807人	年度	目標	実績	28年度	130,000人	128,545人	29年度	130,000人	129,636人	30年度	130,000人	115,992人
年度	目標	実績																								
28年度	940,000人	885,035人																								
29年度	940,000人	872,593人																								
30年度	900,000人	830,807人																								
年度	目標	実績																								
28年度	130,000人	128,545人																								
29年度	130,000人	129,636人																								
30年度	130,000人	115,992人																								
評価検証	<p>公民館利用者数、公民館主催事業への参加者数ともに前年度より減少した。これは、漏水により教室が使用できなくなった東小学校の児童が学習できるよう中央公民館2、3階を臨時的に教室として使用したことや、高齢化に伴う定期利用サークルの解散、趣味の多様化等、社会状況の変化によるものと思われる。</p> <p>各公民館では地域の特色を生かした事業を企画し、「公民館だより」の町内回覧やWebサイト「まなびネットたかさき」の活用などにより、広く市民に参加を呼びかけ、必要とする人に情報が届くように努めるとともに、団体育成・地域づくりの支援を行っている。</p> <p>地域の特色を生かした新たな事業として、毎月開催し地域住民が気軽に交流できる場を作った北公民館の「北カフェ」、大学生と地域住民の交流を図った北部公民館の「地域交流干し柿作りプロジェクト」、地域の意見を基に特色である自然を生かした榛名公民館の「榛名山麓ムササビ観察会」、くらぶち英語村の協力で実施した倉渕公民館の「英語でクリスマス」を始めとした様々な事業を展開している。各公民館では地域の学校や関係団体と連携しながら、地域の特色を生かした事業に取り組んでいる。</p>																									
今後の方針	<p>地域住民の生活を支える学びの拠点として生涯学習の推進に努めるとともに、公民館職員の資質の向上を図りながら、心豊かな活力ある人づくり・地域づくりに資する事業を推進していく。</p>																									

事業名	生涯学習推進事業（取組 4-1-1・4-1-5）																		
事業の目的	市民一人ひとりの主体的な学習活動が地域づくりに生かされ、地域力を育む生涯学習社会が創造されるよう本事業の推進を図るとともに市民の学習活動を支援する。																		
実施状況	<p>◆生涯学習推進事業参加者・受講者数</p> <table border="1" data-bbox="389 416 1401 719"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>30年度目標</th> <th>30年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習推進研究事業</td> <td>375人</td> <td>377人</td> </tr> <tr> <td>まちづくり出前講座</td> <td>7,000人</td> <td>6,982人</td> </tr> <tr> <td>生涯学習フェスティバル</td> <td>500人</td> <td>480人</td> </tr> <tr> <td>地域人材登録活用事業</td> <td>8,000人</td> <td>7,912人</td> </tr> <tr> <td>高崎学検定事業</td> <td>100人</td> <td>94人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆たかさき子ども活動デーの推進</p> <p>学習活動の一環として土曜日を有意義に過ごせるよう、市内各施設の子ども向け事業の情報を掲載した「たかさき子ども活動デー・インフォメーション」を140,000部発行した。</p>	事業名	30年度目標	30年度実績	生涯学習推進研究事業	375人	377人	まちづくり出前講座	7,000人	6,982人	生涯学習フェスティバル	500人	480人	地域人材登録活用事業	8,000人	7,912人	高崎学検定事業	100人	94人
事業名	30年度目標	30年度実績																	
生涯学習推進研究事業	375人	377人																	
まちづくり出前講座	7,000人	6,982人																	
生涯学習フェスティバル	500人	480人																	
地域人材登録活用事業	8,000人	7,912人																	
高崎学検定事業	100人	94人																	
評価検証	<p>各校区の生涯学習推進事業が広く周知され、地域住民の学習を支援したことから、生涯学習推進研究事業の参加者は前年度より実績を伸ばすことができた。まちづくり出前講座と生涯学習フェスティバルの参加者は目標値を下回ったが、出前講座の回数、フェスティバルの参加者数は前年度より増加しており、今後は更に内容を充実させるとともに、周知方法を工夫することで、より参加者数の増を図りたい。</p> <p>「地域人材登録活用事業」は派遣依頼の増加に伴い、実績数が大幅に伸びた。事業の周知が進み、利用団体が増加したことによると思われるが、引き続き、市民の積極的な学習の支援をしていく。「高崎学検定事業」では、減少傾向にあった受検者数も平成29年度に増加となり、30年度においても維持したことから、引き続き、より多くの市民に関心を持ってもらえるよう周知を行うとともに、受検に結びつくよう他の事業との連携も含めた啓発に努める。また、更なる地域活動の発表が行える場の提供や市民が積極的に学習できるような事業の啓発も必要である。</p>																		
今後の方針	インターネットを利用した生涯学習情報システム「まなびネットたかさき」の内容を更に充実・活用する。関係機関との調整を図るとともに連携を深め、市民サービスの向上に努める。																		

事業名	人権文化創造事業（取組 4-1-3・4-1-6）																																					
事業の目的	人権尊重都市宣言の具現化をめざし、基本的人権尊重の精神が本市の隅々まで浸透し、「思いやりの心が行きわたるまちたかさき」の創造を図るため、人の立場を尊重しつつ、人を思いやる心を持つことの大切さを啓発し、支えあって生活していけるよう、さまざまな人権課題に関する講座、懇談会等を開催する。																																					
実施状況	<p>◆心豊かな地域づくりのための懇談会参加者数</p> <table border="1" data-bbox="336 432 892 629"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>2,600人</td> <td>2,190人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>2,500人</td> <td>2,081人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>2,300人</td> <td>1,997人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆人権教育講座参加者数（公民館主催）</p> <table border="1" data-bbox="336 678 892 875"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>1,600人</td> <td>1,564人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>1,700人</td> <td>1,343人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>1,700人</td> <td>1,500人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆人権講演会参加者数（「思いやりを持った社会を作るための市民研修会」等）</p> <table border="1" data-bbox="336 925 892 1122"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>450人</td> <td>390人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>500人</td> <td>355人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>420人</td> <td>328人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>思いやりを持った社会を作るための市民研修会</p>		年度	目標	実績	28年度	2,600人	2,190人	29年度	2,500人	2,081人	30年度	2,300人	1,997人	年度	目標	実績	28年度	1,600人	1,564人	29年度	1,700人	1,343人	30年度	1,700人	1,500人	年度	目標	実績	28年度	450人	390人	29年度	500人	355人	30年度	420人	328人
年度	目標	実績																																				
28年度	2,600人	2,190人																																				
29年度	2,500人	2,081人																																				
30年度	2,300人	1,997人																																				
年度	目標	実績																																				
28年度	1,600人	1,564人																																				
29年度	1,700人	1,343人																																				
30年度	1,700人	1,500人																																				
年度	目標	実績																																				
28年度	450人	390人																																				
29年度	500人	355人																																				
30年度	420人	328人																																				
評価検証	<p>「心豊かな地域づくりのための懇談会」では、参加者数が減少したものの、初めて参加した人が37%を占めた。新たな参加者が人権について考える経験をしたことで、人権尊重の精神が広がって行くと思われる。50歳代以下の参加者の割合は17%であり、前年度より若干ではあるが減少した。懇談会では、異なる世代が混在するグループ編成を行い、世代間交流を図ることができた。</p> <p>各公民館で開催している「人権教育講座」では、参加者数が増加した。子どもを対象とした講座も実施され、幅広い世代の学習の場となった。</p> <p>人権講演会の参加者数も、前年度に引き続き減少したが、「人権教育指導者養成講座」では、障害のある講師から実生活での体験談を聞くことができ、参加者から実体験に即した内容で、有意義な講座であったなどの感想を聞くことができた。</p>																																					
今後の方針	<p>各地区公民館との連携を深めるとともに、より多くの参加が得られるよう周知を行いつつ、小中学校のPTAや地域の育成会などの子育て世代への参加協力を求め、世代間交流を図りながら心豊かな地域づくりのための懇談会や人権教育講座を開催していく。</p> <p>また、事業実施後にアンケートを行いその結果を考察することにより、人権に対する市民の実態を把握し、地域の課題や実情を理解する。更に、社会情勢等も考慮し、参加意義を感じられる講座や充実感を感じられる講座を企画、実施していく。</p>																																					

事業名	家庭教育支援事業（取組 4-1-4）		
事業の目的	家庭の教育力の向上をめざすとともに、子どもを取り巻く環境の変化に対応するために家庭教育に関する各種講座を開催する。また、子育て支援に携わる市民との協働を図り、子育て支援に関わる情報の共有や発信、活動支援を行う。		
実施状況	<b>◆家庭教育関連講座参加者数</b>		
	年度	目標	実績
	28年度	4,700人	4,595人
	29年度	4,700人	4,383人
30年度	4,600人	4,303人	
	 <p style="text-align: center;">子育てスキルアップ講座の様子</p>		
評価検証	昨年度の方針を継続して「子どもや保護者とのかかわり方」と「発達段階にあわせた子育て」に関する講座を企画・開催したが、参加者数は目標値には達しなかった。アンケートによる満足度調査では、講座に対する「満足」の割合は3年連続で98%と高い評価を得ることができた。		
今後の方針	アンケート結果において、子育てに関する悩みや不安を持っている人の割合が昨年度より9%減り62%になった。悩みや不安の解消に向け、継続して支援を行ったり、家庭教育支援に関する情報を「まなびネットたかさき」などで市民に提供したりしたことも効果を発揮しているものと考えられる。市民のニーズに合った講座や参加者が満足感を得られる参加体験型の講座を展開することで参加者の増加を図り、本市の家庭教育力を高めていく。		

事業名	視聴覚教育事業（取組 4-1-5）		
事業の目的	視聴覚教育の推進を図るため、フィルムライブラリーの貸出しの充実を図る。		
実施状況	<b>◆フィルムライブラリー貸出し数</b>		
	年度	目標	実績
	28年度	160本	167本
	29年度	150本	150本
30年度	200本	184本	
評価検証	貸出用の新しいDVD資料を増やししながら取り組んできた。目標は達成できなかったが、前年度の20%増の実績となった。年度によって貸出し数の実績に変動はあるものの、視聴覚教材に対する安定的な需要はあるものとする。		
今後の方針	視聴覚教育に対して、一定の市民の関心があると考えられることから、利用者のニーズを把握し、DVD資料の充実を図り、更に市民の関心が高まるよう、広報活動を行う必要がある。また、これまでの利用者に加え、より多くの関係団体やサークルが利用したくなるようなDVD資料の厳選とその周知を行いながら、関係する各課・担当との調整を図っていく。		

事業名	公民館整備事業（取組 4-1-8）
事業の目的	本市の公民館は中央公民館の他、44の地区公民館を設置し、地域力を高める様々な生涯学習活動を推進している。快適な学習環境を提供するため、安全で利用しやすい公民館施設の整備を図る。
実施状況	地域づくりの拠点となる公民館の整備を進め、平成30年度は久留馬公民館建設工事、八幡公民館改築事業のための設計委託と解体工事を行った。
評価検証	久留馬公民館建設工事を予定どおり行った。 八幡公民館改築工事の設計について、地域で組織した建設検討会議で検討を行い、地域の特色を生かした設計とすることができた。
今後の方針	公民館の整備は、既存の施設については施設の老朽化と耐震診断による結果を踏まえ、改修改築等の方針を定めていきたい。また、新たな公民館建設については、地域の特性、人口等の状況や既存公民館の維持補修の状況などから整備を検討していきたい。

事業名	社会教育施設改修事業（取組 4-1-8）
事業の目的	誰もが快適な学習環境で学べるよう、社会教育施設の修繕・工事や維持管理を行う。施設の老朽化等各館の状況を踏まえ、安全で利用しやすい社会教育施設の整備を図る。
実施状況	市内17か所ある交流館等の社会教育施設が機能を発揮できるように、適切な維持管理・修繕を実施した。
評価検証	交流館の修繕・工事は緊急性が高いものに重点的に予算を充て、平成30年度は屋根修繕など9件の修繕、エアコン交換など9件の工事を行った。
今後の方針	陶芸体験施設牛伏窯や交流館の維持管理については、今後も計画的な補修などに努め、適切な管理を行っていく。



事業名	市民活動センター管理運営事業（取組 4-1-8）																				
事業の目的	市民活動センターは、市民の生涯学習活動の支援、男女共同参画社会の実現および市民公益活動の促進を目的として設置された施設であり、これらの目的を達成するため、諸事業を実施するとともに市民のさまざまな活動を推進する。																				
実施状況	<p>◆市民活動センター利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>63,000人</td> <td>58,432人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>60,000人</td> <td>63,215人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>60,000人</td> <td>57,792人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆市民活動センター団体登録数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>297団体</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>294団体</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>281団体</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	28年度	63,000人	58,432人	29年度	60,000人	63,215人	30年度	60,000人	57,792人	年度	実績	28年度	297団体	29年度	294団体	30年度	281団体
年度	目標	実績																			
28年度	63,000人	58,432人																			
29年度	60,000人	63,215人																			
30年度	60,000人	57,792人																			
年度	実績																				
28年度	297団体																				
29年度	294団体																				
30年度	281団体																				
評価検証	利用者数は各団体の催し物入場者数の影響もあり、昨年度より減少したが、さまざまな事業を通して市民活動センターが周知されたことにより、団体登録数は一定を保っている。																				
今後の方針	市民活動センターは、生涯学習活動の支援、男女共同参画社会の実現および市民公益活動の促進のための拠点施設として、事業を更に強化していく必要がある。 また引き続き、利用者数、団体登録数の確保及び円滑な事業運営のための工夫を進める。																				

点検・評価シート

施策の視点	4 地域力を育む社会教育の充実	担当課
		中央図書館
取組	4-2-1 中央図書館の活用 4-2-2 中央館と地域館とのネットワークの構築 4-2-3 図書資料や視聴覚資料の充実 4-2-4 関係諸機関との連携 4-2-5 近隣自治体の図書館との連携	

事業名	図書館管理運営事業（取組 4-2-1・4-2-2・4-2-3）												
事業の目的	幅広い年齢層の市民や最新の社会動向など、様々なニーズに応えられるように、所蔵資料やサービスを充実させ、より利用しやすい図書館を目指す。												
実施状況	◆個人貸出点数	<table border="1"> <tr> <td>30年度実績</td> </tr> <tr> <td>2,275,157点</td> </tr> </table>	30年度実績	2,275,157点									
	30年度実績												
	2,275,157点												
◆図書館資料個人貸出点数 年度推移	<table border="1"> <caption>◆資料貸出点数 (点)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26年度</td> <td>2,367,501</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>2,436,674</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>2,321,018</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>2,268,727</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>2,275,157</td> </tr> </tbody> </table>	年度	合計	26年度	2,367,501	27年度	2,436,674	28年度	2,321,018	29年度	2,268,727	30年度	2,275,157
年度	合計												
26年度	2,367,501												
27年度	2,436,674												
28年度	2,321,018												
29年度	2,268,727												
30年度	2,275,157												
◆図書館資料貸出人数 年度推移	<table border="1"> <caption>◆資料貸出人数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26年度</td> <td>578,682</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>596,493</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>569,498</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>548,407</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>562,188</td> </tr> </tbody> </table>	年度	合計	26年度	578,682	27年度	596,493	28年度	569,498	29年度	548,407	30年度	562,188
年度	合計												
26年度	578,682												
27年度	596,493												
28年度	569,498												
29年度	548,407												
30年度	562,188												



実施状況	◆資料別蔵書点数			
	区 分	29年度 蔵書数(点)	30年度 蔵書数(点)	
実施状況	高崎市立中央図書館	一 般	473,715	482,738
		児 童	82,049	83,576
		視聴覚	85,868	87,109
	公民館等	一 般	29,998	30,331
		児 童	29,073	29,258
		視聴覚	82	4
	高崎駅サービスセンター	一 般	21,777	22,057
		児 童	1,765	1,869
		視聴覚	0	0
	箕郷図書館	一 般	34,928	31,844
		児 童	15,432	14,483
		視聴覚	3,749	3,852
	群馬図書館	一 般	105,852	107,113
		児 童	35,547	36,028
		視聴覚	7,378	7,543
	新町図書館	一 般	70,444	70,315
		児 童	24,870	25,371
		視聴覚	6,635	6,804
	榛名図書館	一 般	40,203	41,790
		児 童	20,427	20,867
		視聴覚	3,081	3,189
	山種記念吉井図書館	一 般	30,090	30,843
		児 童	23,197	23,736
		視聴覚	2,826	2,887
		合 計	1,148,986	1,163,607
	評価検証	<p>前年度と比較して、蔵書数、個人貸出点数及び貸出人数が増加した。個人貸出点数及び貸出人数は、書架の資料への予約開始に伴い平成27年度に増加したが、その後は概ね平均的に推移している。</p>		
	今後の方針	<p>貸出利用に限らず、図書館がより有効に利用されるよう、引き続き所蔵資料の充実やサービスの向上に努める。</p>		

事業名	関係諸機関との連携事業（取組 4-2-4・4-2-5）										
事業の目的	<p>地域の拠点となる公民館との間でサービスの拡充に努めるとともに、学校図書館などの教育関係機関と資料や人的支援を有効に活用した連携の強化を図る。</p> <p>また、近隣自治体図書館とも連携し、図書資料の相互貸借事業を引き続き活用し、サービスの充実を図る。</p>										
実施状況	<p>◆学校連携相談対応貸出実績</p> <table border="1" data-bbox="405 562 943 663"> <tr> <th colspan="2">30 年度実績</th> </tr> <tr> <td>345 件（61 校）</td> <td>7,736 冊</td> </tr> </table> <p>◆県立図書館学習支援セット貸出実績</p> <table border="1" data-bbox="405 748 943 898"> <tr> <th colspan="2">30 年度実績</th> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>9 回</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>3 回</td> </tr> </table> <p>上記のほか、「がっこう⇔たかさき としょかん通信」を6回発行した。 また、学校図書館指導員の研修に図書館職員を講師として派遣した。</p>	30 年度実績		345 件（61 校）	7,736 冊	30 年度実績		小学校	9 回	中学校	3 回
30 年度実績											
345 件（61 校）	7,736 冊										
30 年度実績											
小学校	9 回										
中学校	3 回										
評価検証	<p>学校連携事業については、「としょかん通信」の発行を定期的に行い、貸出点数が前年度より増加している。このうち「学校連携パック」の占める割合も年々増加しており、連携パックの充実が図れている。</p>										
今後の方針	<p>関係諸機関との連携を深め、更なるサービスの向上を図る。</p>										

点検・評価シート

施策の視点	5 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進	担当課
		文化財保護課
取組	5-1 文化財保護マスタープランの策定・推進 5-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり 5-3 市民への文化財情報の提供 5-4 文化財に親しむための環境づくり 5-5 歴史的建造物の保存へ向けた環境整備 5-6 地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり 5-7 民俗資料の収集と展示 5-8 市民の積極的参加を促す資料館活動 5-9 市民に開かれた資料館の運営 5-10 市民の学習活動の支援	

事業名	文化財保護マスタープラン策定・推進事業（取組5-1）	
事業の目的	市民共有の文化遺産の適切な保存、有効な活用方法や整備のあり方について文化財保護マスタープランの策定を検討する。	
実施状況	マスタープラン策定のための検討を進めた。	
評価検証	マスタープラン策定のための、情報収集及び資料整理作業を行った。	
今後の方針	文化財保存活用地域計画の策定・推進を検討していく。	

事業名	日高遺跡保存整備事業（取組 5-2）							
事業の目的	国指定史跡日高遺跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。							
実施状況	<p>J R 上越線南側区域の整備工事を行い、雨水排水工、安全施設工を実施した。</p> <p>また、供用を開始した J R 線北側区域では、復元した弥生時代の水田を活用し、地元で組織された「日高遺跡をともに楽しむ会」とともに、住民参加型の稲作体験イベントを開催した。</p> <p>開園部分については、業務委託により除草等の管理を行った。</p> <p>◆事業進捗率（平成 30 年度）</p> <table border="1" data-bbox="357 965 887 1064"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2%</td> <td>2%</td> <td>49%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	2%	2%	49%	 <p style="text-align: center;">整備完成予想図</p>  <p style="text-align: center;">稲作イベント（田植え）の様子</p>
目標	実績	通算実績						
2%	2%	49%						
評価検証	整備工事に着手して 10 年目となり、上越線南側区域の工事を実施した。また、復元した水田では、地元で組織された活用団体とともに、住民参加型の稲作体験イベントなどを開催し、公園の利用のあり方について市民の関心が高まった。							
今後の方針	J R 上越線南側区域の整備工事を推進する。							

事業名	箕輪城跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡箕輪城跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>史跡整備基本設計に基づき、本丸の土塁整備工事と本丸・蔵屋敷間木橋整備工事（基礎工事）を実施した。他に本丸南虎口土塁発掘調査を行った。</p> <p>◆事業進捗率（平成30年度）</p> <table border="1" data-bbox="359 564 882 665"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8%</td> <td>8%</td> <td>66%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="379 719 850 1093" style="text-align: center;">  <p>整備完成予想図</p> </div> <div data-bbox="919 712 1430 1093" style="text-align: center;">  <p>本丸・蔵屋敷間木橋整備工事状況</p> </div> </div>	目標	実績	通算実績	8%	8%	66%
目標	実績	通算実績					
8%	8%	66%					
評価検証	整備工事に着手して8年目になり、郭馬出地区に引き続き、本丸地区の整備が着々と進んでいる状況である。						
今後の方針	本丸地区の整備工事を推進する。						

事業名	北谷遺跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡北谷遺跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>平成23年度に策定された保存管理計画をもとに、28年度から史跡地の公有地化に着手し、30年度も実施した。 その他、除草等の史跡管理を行った。</p> <p>◆事業進捗率（平成30年度）</p> <table border="1" data-bbox="371 663 943 763"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15%</td> <td>22%</td> <td>64%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	15%	22%	64%
目標	実績	通算実績					
15%	22%	64%					
評価検証	引き続き史跡の公有地化を進めた。北谷遺跡の整備について、地元の関心が高まってきている。						
今後の方針	史跡地の公有地化を進める。						



北谷遺跡航空写真

事業名	山名古墳群保存整備事業（取組 5-2）
事業の目的	市指定史跡山名古墳群を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。
実施状況	<p>除草等の維持管理を行い、来訪者が見学できるよう、周辺環境を整えた。</p> <p>山上碑見学のための大型バスが駐車できるようになったため、遠方からのバスツアーなどの、問い合わせが増加している。</p>  <p style="text-align: center;">山名古墳群航空写真</p>
評価検証	維持管理を継続しており、整備については、今後の検討課題となっている。
今後の方針	上野三碑や他の史跡との一体的活用について検討を進めていく。



事業名	「世界の記憶 上野三碑」関連事業（取組 5-2・5-3・5-4・5-10）
事業の目的	ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の周知活動や周辺環境整備、保存管理等を実施する。
実施状況	<p>ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の保存活用を進めるため、三碑一帯の整備、多胡碑記念館の機能強化、ボランティア団体との連携、動画配信や各種パンフレットを活用した情報発信、民間団体との協力による地域振興、児童・生徒への教育などに取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めぐりバスの運行（通年）</li> <li>・多胡碑記念館入館料の無料化（通年）</li> <li>・ボランティア団体等への補助 <ul style="list-style-type: none"> <li>上野三碑ボランティア会</li> <li>山上碑・金井沢碑を愛する会</li> <li>上野三碑をつなぐ会</li> </ul> </li> <li>・開扉公開の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年11月4日、平成31年3月10日</li> </ul> </li> <li>・副教材の配布 <ul style="list-style-type: none"> <li>市立小学校、中学校の全児童・生徒</li> </ul> </li> <li>・レプリカの展示・貸出 <ul style="list-style-type: none"> <li>高崎駅コンコース（通年展示）、奈良県斑鳩町、熊谷駅コンコース、東京スカイツリー</li> </ul> </li> <li>・ロゴマークの普及・使用許可</li> <li>・講演会の開催（3回） <ul style="list-style-type: none"> <li>講師 久保信太郎氏、三上喜孝氏、神保佑史氏</li> </ul> </li> <li>・周知事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレット作成及び配布、高崎駅ペDESTリアンデッキ看板設置等</li> </ul> </li> <li>・企画展の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>「山上碑の世界～古墳から寺院へ」 多胡碑記念館</li> </ul> </li> <li>・環境整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア団体と共同による作業</li> </ul> </li> </ul>
評価検証	登録前と比較し見学者数は倍増している。平成30年は、県外からの団体客が増えており、周知活動の成果が出ている。
今後の方針	ユネスコ「世界の記憶」に関わる事務が群馬県から高崎市教育委員会に移管された。今後は、地元ボランティア団体等と協力し、上野三碑の普及・推進に努めたい。







上野三碑めぐりバス



上野三碑副読本（小・中学生対象）

事業名	文化財管理事業（取組 5-2・5-6）																																
事業の目的	市内に点在する指定文化財を保護するとともに、史跡・重要文化財等の一般公開を実施する。また、文化財愛護精神の高揚を図るため、文化財作文コンクールなど参加型の関連事業を開催する。																																
実施状況	<p>保護普及活動事業として、文化財作文コンクールの実施、上豊岡の茶屋本陣等の歴史的建造物の公開、また、ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の覆い屋を11月と3月に開扉し広く公開した。</p> <p>◆文化財作文コンクール応募者数</p> <table border="1" data-bbox="379 707 874 904"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>1,000人</td> <td>831人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>1,000人</td> <td>1,425人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>1,000人</td> <td>1,268人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>作文コンクール授賞式の様子</p> <p>◆上豊岡茶屋本陣見学者数</p> <table border="1" data-bbox="379 1048 874 1245"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>1,400人</td> <td>1,308人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>1,400人</td> <td>953人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>1,400人</td> <td>826人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>上野三碑一般公開</p> <p>◆上野三碑一般公開見学者数</p> <table border="1" data-bbox="379 1406 874 1603"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度（1日公開）</td> <td>1,421人</td> </tr> <tr> <td>29年度（3日公開）</td> <td>3,503人</td> </tr> <tr> <td>30年度（2日公開）</td> <td>1,170人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	28年度	1,000人	831人	29年度	1,000人	1,425人	30年度	1,000人	1,268人	年度	目標	実績	28年度	1,400人	1,308人	29年度	1,400人	953人	30年度	1,400人	826人	年度	実績	28年度（1日公開）	1,421人	29年度（3日公開）	3,503人	30年度（2日公開）	1,170人
年度	目標	実績																															
28年度	1,000人	831人																															
29年度	1,000人	1,425人																															
30年度	1,000人	1,268人																															
年度	目標	実績																															
28年度	1,400人	1,308人																															
29年度	1,400人	953人																															
30年度	1,400人	826人																															
年度	実績																																
28年度（1日公開）	1,421人																																
29年度（3日公開）	3,503人																																
30年度（2日公開）	1,170人																																
評価検証	文化財への関心は年々高まっているが、猛暑の影響もあり夏季の見学者数が伸びていない。																																
今後の方針	指定文化財の適切な保存管理に努め、文化財が身近に感じられるようイベントの開催など、見学者を増やす工夫を図る。																																

事業名	埋蔵文化財調査事業（取組 5-3・5-4）												
事業の目的	<p>開発事業によって破壊された遺跡の出土品などを展示し、その成果を広く市民に公開する。前橋高崎連携事業の一つとして実施し、両市の市民が郷土史に理解を深めるような展示を行う。</p>												
実施状況	<p>前橋市との連携展示会をシティギャラリーで実施し、展示解説会を行った。</p> <p>◆連携展入場者数</p> <table border="1" data-bbox="379 584 895 781"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>1,200人</td> <td>1,161人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>1,300人</td> <td>1,123人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>1,200人</td> <td>1,150人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">高崎会場展示品</p>	年度	目標	実績	28年度	1,200人	1,161人	29年度	1,300人	1,123人	30年度	1,200人	1,150人
年度	目標	実績											
28年度	1,200人	1,161人											
29年度	1,300人	1,123人											
30年度	1,200人	1,150人											
評価検証	<p>「災害を乗り越えた先人たちー考古学からみた災害と復興の歴史ー」と題し、本市と前橋市の発掘調査で出土した優品に焦点をあて、災害考古学に関する遺物約80点を展示した。</p> <p>また、昨年に引き続き展示関連の解説会を実施した。</p>												
今後の方針	<p>発掘調査によって得られた資料をより生かすため、公開の場を増やし、文化財保護の啓発を図る。</p>												



事業名	多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業（取組5-3）						
事業の目的	多胡郡衙跡推定地を調査することにより、多胡碑の史跡としての価値を高めるとともに、多胡碑の重要性等について周知を図る。						
実施状況	<p>8年目の調査となった平成30年度は多胡郡正倉跡の総括報告書を刊行し、郡衙施設の有無を確認するため、55㎡を調査し、溝1条を検出した。</p> <p>また、多胡郡正倉跡の国指定を目指すため、意見具申の作業として地積調査や地権者への同意交渉を行った。</p> <p>◆事業進捗率（平成30年度）</p> <table border="1" data-bbox="354 801 887 904"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9%</td> <td>9%</td> <td>70%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	9%	9%	70%
目標	実績	通算実績					
9%	9%	70%					
評価検証	平成28年度までの調査により、特別史跡多胡碑の真南約300mの場所において、多胡郡衙の一部と推定される多胡郡正倉跡の範囲が確定したため、29年度から総括報告書作成に伴う整理作業を実施し、30年度に総括報告書を刊行した。						
今後の方針	<p>今後も多胡郡衙の遺構所在、範囲及び性格を明らかにするため確認調査を継続するとともに、国指定に向けて文化庁に意見具申を行っていく。</p> <p>また、地元住民及び地権者に遺跡の重要性を伝える啓発活動を継続する。</p>						



刊行した総括報告書

事業名	上野国分尼寺跡範囲確認調査事業（取組 5-3）							
事業の目的	上野国分尼寺跡の寺域範囲や施設配置等を調査することにより、国分尼寺の史跡としての価値を高めるとともに、国分尼寺の重要性等について周知を図る。							
実施状況	<p>3年目の調査となった平成30年度は400㎡を調査し、尼坊跡の全体規模が全長45mの長大な建物であったことが明らかになった。伽藍地北辺では築地塀跡が確認され、また、講堂跡を想定する上で重要な手がかりとなる礎石を確認した。</p> <p>◆事業進捗率（平成30年度）</p> <table border="1" data-bbox="352 801 885 902"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9%</td> <td>9%</td> <td>27%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	9%	9%	27%	 <p>北辺築地塀跡</p>
目標	実績	通算実績						
9%	9%	27%						
評価検証	<p>確認された尼坊跡全体規模は、梁行4間（10.8m）、桁行15間（45m）、南北二面に廂をもつ切妻造りである。伽藍地北辺では、堤状遺構が確認され、南北両裾に溝が掘られている。盛土を伴うことや裾部に多量の瓦が集積していたことから築地塀と判断された。マスコミにも取り上げられ、現地説明会を開催したところ、260人の見学者が参加するなど市民の大きな関心を得た。</p>							
今後の方針	<p>今後の遺跡保存を検討するうえで、伽藍地西辺範囲の調査を実施し、寺域の範囲を確定していく。</p> <p>遺跡の価値付けを行うための発掘調査概要報告書作成に向けた基礎資料整理を実施する。</p>							





事業名	文化財調査事業（取組 5-5・5-6）										
事業の目的	文化財の把握・保護に取り組むため、指定文化財の所在調査や未指定文化財等の詳細調査、指定文化財の修理や案内板等の設置を行う。										
実施状況	<p>指定文化財所在確認調査や重要無形民俗文化財の指定に係わる調査を実施した。国指定重要文化財榛名神社や市指定文化財の保存修理を実施した。指定文化財の標柱及び説明板を設置し文化財の普及に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="352 566 1382 813"> <thead> <tr> <th>事業の内容</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財所在確認調査数</td> <td>62 件</td> </tr> <tr> <td>重要無形民俗文化財調査</td> <td>3 件</td> </tr> <tr> <td>文化財修理件数</td> <td>3 件</td> </tr> <tr> <td>指定文化財標柱・説明板設置件数</td> <td>4 件</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="411 875 826 1184" style="text-align: center;">  <p>榛名神社国祖社及び額殿修理状況</p> </div> <div data-bbox="911 875 1329 1184" style="text-align: center;">  <p>高崎の山車行事</p> </div> </div>	事業の内容	件数	文化財所在確認調査数	62 件	重要無形民俗文化財調査	3 件	文化財修理件数	3 件	指定文化財標柱・説明板設置件数	4 件
事業の内容	件数										
文化財所在確認調査数	62 件										
重要無形民俗文化財調査	3 件										
文化財修理件数	3 件										
指定文化財標柱・説明板設置件数	4 件										
評価検証	<p>市内指定文化財の所在確認調査を継続実施し、文化財の保存管理状況などを確認し、課題等を把握することができた。</p> <p>また、指定文化財の標柱・説明板を設置し、文化財の活用に向けた成果を上げることができた。</p> <p>平成30年度は、市指定重要無形民俗文化財において、新たに獅子舞2件、高崎の山車行事1件が文化財指定された。</p>										
今後の方針	今後の文化財指定・保護の資料とするため、各種文化財の調査事業の充実を図る。										

事業名	歴史民俗資料館運営事業（取組 5-7・5-8）																																																	
事業の目的	昔の人の生活文化を知り市民生活の推移を理解していくため、歴史民俗資料の収集や企画展の開催、体験的な学習活動を実施する。																																																	
実施状況	<p>○歴史民俗資料館</p> <table border="1" data-bbox="375 376 1422 622"> <thead> <tr> <th>事業の内容</th> <th>期日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画展1「高崎人 まつりの記録」</td> <td>30. 9. 22～12. 2</td> </tr> <tr> <td>特別展示「高崎山車まつり」</td> <td>31. 2. 16～3. 3</td> </tr> <tr> <td>企画展2「郷土玩具 津々浦々」</td> <td>31. 3. 9～01. 5. 26</td> </tr> <tr> <td colspan="2">団体見学受入、小学校社会科体験学習、博物館実習生受入</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆歴史民俗資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="375 719 904 918"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>7,500人</td> <td>6,718人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>7,500人</td> <td>6,327人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>7,000人</td> <td>6,097人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>企画展2「郷土玩具 津々浦々」</p> <p>○榛名歴史民俗資料館</p> <table border="1" data-bbox="375 1061 1307 1402"> <thead> <tr> <th>事業の内容</th> <th>期日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画展</td> <td>「雛人形展」 「昔の教科書展」</td> <td>30. 3. 1～ 5. 31</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">その他事業</td> <td>「榛名神社史跡めぐり」</td> <td>30. 8. 23</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">「榛名の歴史を知る 講演会」</td> <td>30. 9. 15</td> </tr> <tr> <td>30. 9. 28</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>30. 10. 6</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆榛名歴史民俗資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="375 1449 908 1648"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>3,500人</td> <td>3,257人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>4,000人</td> <td>6,696人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>7,000人</td> <td>7,715人</td> </tr> </tbody> </table>		事業の内容	期日	企画展1「高崎人 まつりの記録」	30. 9. 22～12. 2	特別展示「高崎山車まつり」	31. 2. 16～3. 3	企画展2「郷土玩具 津々浦々」	31. 3. 9～01. 5. 26	団体見学受入、小学校社会科体験学習、博物館実習生受入		年度	目標	実績	28年度	7,500人	6,718人	29年度	7,500人	6,327人	30年度	7,000人	6,097人	事業の内容	期日	企画展	「雛人形展」 「昔の教科書展」	30. 3. 1～ 5. 31	その他事業	「榛名神社史跡めぐり」	30. 8. 23	「榛名の歴史を知る 講演会」	30. 9. 15	30. 9. 28			30. 10. 6	年度	目標	実績	28年度	3,500人	3,257人	29年度	4,000人	6,696人	30年度	7,000人	7,715人
事業の内容	期日																																																	
企画展1「高崎人 まつりの記録」	30. 9. 22～12. 2																																																	
特別展示「高崎山車まつり」	31. 2. 16～3. 3																																																	
企画展2「郷土玩具 津々浦々」	31. 3. 9～01. 5. 26																																																	
団体見学受入、小学校社会科体験学習、博物館実習生受入																																																		
年度	目標	実績																																																
28年度	7,500人	6,718人																																																
29年度	7,500人	6,327人																																																
30年度	7,000人	6,097人																																																
事業の内容	期日																																																	
企画展	「雛人形展」 「昔の教科書展」	30. 3. 1～ 5. 31																																																
その他事業	「榛名神社史跡めぐり」	30. 8. 23																																																
	「榛名の歴史を知る 講演会」	30. 9. 15																																																
		30. 9. 28																																																
		30. 10. 6																																																
年度	目標	実績																																																
28年度	3,500人	3,257人																																																
29年度	4,000人	6,696人																																																
30年度	7,000人	7,715人																																																
評価検証	<p>歴史民俗資料館は、昨年同様「高崎のことがわかる」をコンセプトに企画展などを開催し、特に小学生の体験学習で好評を得たが、入館者数が目標値には届かず、実績も昨年度を上回ることができなかった。</p> <p>榛名歴史民俗資料館は、榛名林間学校の児童が自然体験学習での施設利用や、地元イベントに協賛し無料入館にしたため、入館者数が急増し目標値を上回った。</p>																																																	
今後の方針	<p>地元根ざした資料館として特色ある企画展等を開催し、入館者の増加と満足度向上に努めていく。</p>																																																	



事業名	観音塚考古資料館運営事業（取組 5-9・5-10）																																	
事業の目的	誰もが身近に考古学習に親しめるよう、観音塚古墳出土品を中心とした企画展、体験学習の場を提供する。																																	
実施状況	<table border="1" data-bbox="379 376 1409 813"> <thead> <tr> <th colspan="3">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">常設展 「観音塚古墳とその世界」</td> </tr> <tr> <td>ミニ企画展 30.4.5～9.30</td> <td colspan="2">入館者 4,259 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">「昔を語る多胡の古墳～多胡郡建郡の背景を考える」</td> </tr> <tr> <td>企画展 30.10.6～12.2</td> <td colspan="2">入館者 2,632 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">第30回企画展「古墳時代群馬の渡来文化～観音塚古墳の被葬者像を探る」</td> </tr> <tr> <td colspan="3">講演会、石室ガイドツアー、石のまが玉づくり、ガラスのまが玉づくり、土鈴づくり、陶板壁飾りづくり、歴史ウォーク、古墳めぐりバスツアー、団体施設見学、小学校社会科学習、やるベンチャー</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="416 864 863 1196">  <p style="text-align: center;">企画展「古墳時代群馬の渡来文化」</p> </div> <div data-bbox="975 864 1422 1196">  <p style="text-align: center;">歴史ウォーク</p> </div> </div> <p>◆観音塚考古資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="379 1294 930 1491"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>9,000人</td> <td>8,230人</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>11,000人</td> <td>7,900人</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>9,000人</td> <td>7,700人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容			常設展 「観音塚古墳とその世界」			ミニ企画展 30.4.5～9.30	入館者 4,259 人		「昔を語る多胡の古墳～多胡郡建郡の背景を考える」			企画展 30.10.6～12.2	入館者 2,632 人		第30回企画展「古墳時代群馬の渡来文化～観音塚古墳の被葬者像を探る」			講演会、石室ガイドツアー、石のまが玉づくり、ガラスのまが玉づくり、土鈴づくり、陶板壁飾りづくり、歴史ウォーク、古墳めぐりバスツアー、団体施設見学、小学校社会科学習、やるベンチャー			年度	目標	実績	28年度	9,000人	8,230人	29年度	11,000人	7,900人	30年度	9,000人	7,700人
事業の内容																																		
常設展 「観音塚古墳とその世界」																																		
ミニ企画展 30.4.5～9.30	入館者 4,259 人																																	
「昔を語る多胡の古墳～多胡郡建郡の背景を考える」																																		
企画展 30.10.6～12.2	入館者 2,632 人																																	
第30回企画展「古墳時代群馬の渡来文化～観音塚古墳の被葬者像を探る」																																		
講演会、石室ガイドツアー、石のまが玉づくり、ガラスのまが玉づくり、土鈴づくり、陶板壁飾りづくり、歴史ウォーク、古墳めぐりバスツアー、団体施設見学、小学校社会科学習、やるベンチャー																																		
年度	目標	実績																																
28年度	9,000人	8,230人																																
29年度	11,000人	7,900人																																
30年度	9,000人	7,700人																																
評価検証	<p>入館者は前年対比において減となったが、秋の企画展では群馬県内出土の渡来系文物を展示したことで、古墳時代に関心のある多数の来館者があり、企画展開催期間中の入館者数は前年より増加している。またミニ企画展では、ユネスコの「世界の記憶」に登録された上野三碑の1つである多胡碑周辺の古墳を紹介することで、多胡郡建郡以前の歴史を伝えることができた。県への事業協力では、県内の史跡、歴史関連施設をめぐり賞品を獲得する事業への協力を行ったことで集客を図った。</p>																																	
今後の方針	<p>学校教育・社会教育関連施設、文化振興・観光関連部局との更なる連携に努めるとともに先進的な事業展開をする他館を研究し、入館者の増加を図る。</p> <p>また、歴史・考古学愛好者のニーズに応えられるよう、更に内容の充実を図っていくとともに、メディア等にも情報提供を行って認知度を高めていく。</p>																																	

事業名	かみつけの里博物館運営事業（取組 5-3・5-9・5-10）																																																												
事業の目的	古墳時代を中心とした、資料の収集・保管・調査研究や展示活動など様々な教育活動を行うことにより、人々の教養向上を推進する。																																																												
実施状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center; background-color: #cccccc;">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">体験型企画展「わくわく古代体験 '18」 30. 7. 21～8. 31</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">35 日間</td> <td style="text-align: right;">入館者</td> <td colspan="2" style="text-align: right;">9,025 人</td> </tr> <tr> <td colspan="4">第 2 7 回特別展「太子塚古墳を考える」 31. 1. 26～3. 24</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">49 日間</td> <td style="text-align: right;">入館者</td> <td colspan="2" style="text-align: right;">5,198 人</td> </tr> <tr> <td colspan="4">企画展「田島家資料の世界」 30. 11. 10～12. 24</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">39 日間</td> <td style="text-align: right;">入館者</td> <td colspan="2" style="text-align: right;">3,798 人</td> </tr> <tr> <td>歴史講座 「かみつけ塾」</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">1,015 人</td> <td style="text-align: right;">開催数 12 回</td> </tr> <tr> <td>石の勾玉づくり</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">4,531 人</td> <td style="text-align: right;">製作数 4,531 個</td> </tr> <tr> <td>総合的学習の時間</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td colspan="2" style="text-align: right;">上郊小学校 6 年生 延 222 人</td> </tr> <tr> <td colspan="4">第 8 回かみつけの里古墳祭り 30. 10. 21（実行委員会主催） 入場者 8,000 人</td> </tr> <tr> <td colspan="4">・ 「王の儀式再現劇」 上演、古代米試食、勾玉・埴輪づくり体験、物販</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>上郊小総合的学習の時間－田植え</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ぐんま「はにわの里」夏まつりー古墳トレイン</p> </div> </div> <p>◆かみつけの里博物館入館者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">年度</th> <th style="width: 25%;">目標</th> <th style="width: 25%;">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28 年度</td> <td>25,000 人</td> <td>42,914 人</td> </tr> <tr> <td>29 年度</td> <td>30,000 人</td> <td>37,825 人</td> </tr> <tr> <td>30 年度</td> <td>42,000 人</td> <td>43,210 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容				体験型企画展「わくわく古代体験 '18」 30. 7. 21～8. 31				35 日間	入館者	9,025 人		第 2 7 回特別展「太子塚古墳を考える」 31. 1. 26～3. 24				49 日間	入館者	5,198 人		企画展「田島家資料の世界」 30. 11. 10～12. 24				39 日間	入館者	3,798 人		歴史講座 「かみつけ塾」	参加者	1,015 人	開催数 12 回	石の勾玉づくり	参加者	4,531 人	製作数 4,531 個	総合的学習の時間	参加者	上郊小学校 6 年生 延 222 人		第 8 回かみつけの里古墳祭り 30. 10. 21（実行委員会主催） 入場者 8,000 人				・ 「王の儀式再現劇」 上演、古代米試食、勾玉・埴輪づくり体験、物販				年度	目標	実績	28 年度	25,000 人	42,914 人	29 年度	30,000 人	37,825 人	30 年度	42,000 人	43,210 人
事業の内容																																																													
体験型企画展「わくわく古代体験 '18」 30. 7. 21～8. 31																																																													
35 日間	入館者	9,025 人																																																											
第 2 7 回特別展「太子塚古墳を考える」 31. 1. 26～3. 24																																																													
49 日間	入館者	5,198 人																																																											
企画展「田島家資料の世界」 30. 11. 10～12. 24																																																													
39 日間	入館者	3,798 人																																																											
歴史講座 「かみつけ塾」	参加者	1,015 人	開催数 12 回																																																										
石の勾玉づくり	参加者	4,531 人	製作数 4,531 個																																																										
総合的学習の時間	参加者	上郊小学校 6 年生 延 222 人																																																											
第 8 回かみつけの里古墳祭り 30. 10. 21（実行委員会主催） 入場者 8,000 人																																																													
・ 「王の儀式再現劇」 上演、古代米試食、勾玉・埴輪づくり体験、物販																																																													
年度	目標	実績																																																											
28 年度	25,000 人	42,914 人																																																											
29 年度	30,000 人	37,825 人																																																											
30 年度	42,000 人	43,210 人																																																											
評価検証	<p>年間入館者数は前年比 14% 増で、開館 20 年で最高値となった。これは、各種メディアへの露出に加え、ツアー団体や学校団体が着実に増加傾向にあることも影響している。また、各月の入館者数では、年間通じて増加している。これは、俗に「客枯れ」といわれる冬期に特別展を開催したことや、旅行会社のツアーが冬に企画されたことも要因といえる。さらに、来館する学校団体も 100 校を超え、その多くは歴史を学びはじめた小学校 6 年生が約 9 割を占める。これは、古墳のイメージが実感できる復元古墳を軸に、実物の埴輪見学や体験学習が半日で体験でき、古墳時代を楽しく学べる空間作りをしている結果と考えられる。</p>																																																												
今後の方針	<p>館蔵品について活用を図りながら適切な管理を行う。また、地域の文化資産を核に魅力ある展覧会を行い、楽しく学べる事業実施に努める。更に、これら文化資産を未来に継承すべく、市民との協働により事業を実施し、地域交流の核となる空間作りを行う。</p>																																																												

事業名	多胡碑記念館運営事業（取組 5-3・5-9・5-10）																																
事業の目的	多胡碑を中心とした資料等を収集・展示し市民の理解を深めるとともに、山上碑・金井沢碑を含め世界の記憶に登録された「上野三碑」の情報発信を図る。																																
実施状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center; background-color: #cccccc;">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">常設展示</td> </tr> <tr> <td colspan="4">国指定特別史跡多胡碑、山上碑、金井沢碑（上野三碑）のレプリカなど、石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物。中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">企画展示</td> </tr> <tr> <td>大賀蓮写真展</td> <td style="text-align: center;">30. 7. 11～7. 29</td> <td style="text-align: center;">入館者</td> <td style="text-align: right;">541 人</td> </tr> <tr> <td>第 4 1 回 企画展「山上碑の世界 ～古墳から寺院へ～」</td> <td style="text-align: center;">30. 10. 31～12. 9</td> <td style="text-align: center;">入館者</td> <td style="text-align: right;">2, 313 人</td> </tr> <tr> <td>第 2 2 回 多胡碑記念館吉井こども書道展</td> <td style="text-align: center;">31. 1. 19～2. 11</td> <td style="text-align: center;">入館者</td> <td style="text-align: right;">734 人</td> </tr> <tr> <td>上野三碑一般公開</td> <td style="text-align: center;">31. 3. 10</td> <td style="text-align: center;">入館者</td> <td style="text-align: right;">274 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容				常設展示				国指定特別史跡多胡碑、山上碑、金井沢碑（上野三碑）のレプリカなど、石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物。中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示。				企画展示				大賀蓮写真展	30. 7. 11～7. 29	入館者	541 人	第 4 1 回 企画展「山上碑の世界 ～古墳から寺院へ～」	30. 10. 31～12. 9	入館者	2, 313 人	第 2 2 回 多胡碑記念館吉井こども書道展	31. 1. 19～2. 11	入館者	734 人	上野三碑一般公開	31. 3. 10	入館者	274 人
	事業の内容																																
	常設展示																																
	国指定特別史跡多胡碑、山上碑、金井沢碑（上野三碑）のレプリカなど、石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物。中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示。																																
企画展示																																	
大賀蓮写真展	30. 7. 11～7. 29	入館者	541 人																														
第 4 1 回 企画展「山上碑の世界 ～古墳から寺院へ～」	30. 10. 31～12. 9	入館者	2, 313 人																														
第 2 2 回 多胡碑記念館吉井こども書道展	31. 1. 19～2. 11	入館者	734 人																														
上野三碑一般公開	31. 3. 10	入館者	274 人																														
																																	
小学生体験の様子	団体見学の様子																																
◆多胡碑記念館入館者数																																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">年度</th> <th style="width: 25%;">目標</th> <th style="width: 25%;">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28 年度</td> <td>10, 000 人</td> <td>9, 319 人</td> </tr> <tr> <td>29 年度</td> <td>11, 000 人</td> <td>18, 723 人</td> </tr> <tr> <td>30 年度</td> <td>20, 000 人</td> <td>15, 291 人</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	28 年度	10, 000 人	9, 319 人	29 年度	11, 000 人	18, 723 人	30 年度	20, 000 人	15, 291 人																				
年度	目標	実績																															
28 年度	10, 000 人	9, 319 人																															
29 年度	11, 000 人	18, 723 人																															
30 年度	20, 000 人	15, 291 人																															
評価検証	<p>多胡碑の関連資料やその時代の遺物、中国の古い石刻の拓本を常設展示し、多胡碑をはじめ郷土の歴史、文化の研究や情報発信の場として、学校教育、生涯学習、学術及び文化の振興の場として広く活用されている。</p> <p>平成 2 9 年度は上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録を受け、来館・来場者が急増したが、3 0 年度は 2 割ほど減少した。</p>																																
今後の方針	<p>上野三碑見学の拠点施設として、上野三碑に関する展示の更なる充実に努め、引き続き学校教育、社会教育、生涯学習の場としての機能を充実させる。関係団体と連携し来館・来場者へ対応するとともに、情報発信等を図っていく。</p>																																



事業名	埋蔵文化財センター整備事業（取組 5－10）
事業の目的	市町村合併により大幅に増加する出土品等の資料を集約して体系的に保存・管理し、生涯学習や学校教育と連携した活用を推進するための拠点施設として、埋蔵文化財センターの整備を行う。
実施状況	収蔵量や保管状態の再確認を行った結果、増加する出土品に対応するため、新たな施設が必要であることが確認された。
評価検証	収蔵すべき資料の量を把握し、各地の先進事例について情報収集してきたが、新設の場合、事業費が高額になってしまうため、今後は既存の市有施設を改修して活用できないか検討していく。
今後の方針	活用可能な市有既存施設の情報収集を進める。



## V 点検・評価結果に対する学識経験者の意見

### 1 はじめに

高崎市の教育行政は、これまで平成20年度から29年度までの計画期間として掲げた指針「高崎市教育ビジョン」に基づき各事業を体系化してきたが、「高崎市教育ビジョン」の計画期間終了に伴って、平成30年度以降の教育行政方針は「高崎市教育大綱」に基づいて施策を体系化することとなった。

「高崎市教育大綱」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改定により新たな教育委員会制度がスタートしたことに伴い、総合教育会議により定められた高崎市の総合的な教育施策の目的や方針である。新たな制度においては、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保に加え、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携の強化など、より一層の教育環境への柔軟な対応が求められているところであり、この点検・評価報告書を通して実施した施策の成果を評価し、その評価を公表することにより、住民への説明責任を果たすことの重要性が高まっていると言える。

今回の点検・評価は、「高崎市教育大綱」に基づく施策の体系における事業として初めての点検・評価となっており、「高崎市教育大綱」に掲げる施策に対して、「平成30年度高崎市教育行政方針」において、施策の視点ごとに掲げる詳細な取組に対して、点検評価を実施している。

ここでは5つの施策の視点ごとに点検・評価について検証を行うものとする。

### 2 5つの施策の成果と課題について

#### ★施策の視点1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

幼・保・小連携推進事業では、研修会等の参加者数の実績が、減少傾向にはあるものの、概ね目標を達成していると認められる。その内容についても、引き続き、幼稚園や保育所の職員に必要な指導法や喫緊の課題が取り上げられていると考えられる。今後も、子どもたちが幼稚園や保育所(園)から小学校へスムーズに移行できるよう、幼稚園、保育所(園)、認定こども園と小学校の連携を深めるとともに、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫(スタートカリキュラム)を行うなど、滑らかな接続に向けた取組の充実を期待する。

子どもの学ぶ意欲向上事業では、授業がわかると答えた児童生徒が8割以上いる学校の割合が100%に達し、事業は成果を上げていると認められる。今後も多くの児童生徒が、授業がわかると答えられるよう、引き続き、基礎学力と学ぶ意欲の向上に努めるとともに、学力調査の結果を活用して個に応じた指導を行う等の指導法の工夫・改善を継続して行っていく必要があると考える。

児童生徒の学力補充事業では、「イングリッシュ・サマースクール」は大幅に参加人数が増え、「イングリッシュ・サマーキャンプ」は定員を大幅に超え抽選を行うほどの申込があった。一方で、「イングリッシュ・フェスタ」、「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」では参加児童生徒数がわずかに減少した。昨年度の検証結果に基づく取組の成果が実績に反映した事業と反映できなかった事業があるが、この事業自体は、生徒が自ら進んで学習するきっかけになるものと考えられることから、引き続き、事業の見直しも視野に入れながら、各事業の内容の充実や児童生徒及び保護者への周知方法について工夫を行う等、実りある事業となるよう期待する。

英語教育指導事業では、平成28年度から全小学校が教育課程特例校となったことや29年度にALT全校配置が完了し、高崎市の英語教育の充実の基礎が完成し、30年度においても、ALTの

授業時間数の実績は目標を上回るものとなった。引き続き、全校に配置されたALTを有効に活用することで、英語への興味や関心を高め、英語学習に意欲的に取り組む児童生徒を育成するとともに、小中学校の連携も更に推進しながら、英語教育の早期化及び教科化に当たって、更に英語教育の充実を図っていくことが必要であると考えられる。

高崎市学力アップ推進事業では、前年度と同様に全小中学校区で地域運営委員会を開催するとともに、代表者による全体会を開催したことで、引き続き、事業の質の向上及び推進を図ることができたものと考えられる。「学力アップ大作戦」における児童生徒やボランティアの参加数、「中学生休日学習相談ステーション」における参加者総数はそれぞれ微減となり、人数という指標においては実績が下がっているが、日々の学力を高めていくための礎となる事業であり、学力の向上に向けて継続した実施が必要となることから、引き続き各地域の創意工夫が発揮できるよう、地域や家庭との連携を更に進め、地域の教育力を生かした取組を展開していくことを期待する。

いじめ防止対策事業では、各校において「いじめ防止プログラム」に基づくいじめ防止の取組が推進されるとともに、教育委員会においても、各校のいじめ防止の取組の充実を図るための事業や支援を行い、市全体において、いじめ防止に向けた取組が推進されていると評価できる。特に、「いじめ防止担当教諭」は高崎市が独自に指名しているもので、いじめ防止担当教諭の研修会を開催し、その資質の向上を図ることは、学校のいじめ防止の取組を推進させるものと考えられる。また、「いじめ防止子ども会議」、「中学生リーダー研修会」や「いじめ防止缶バッジの作成・配布」は、子ども達が主体となって、いじめ防止に向けて取り組んでいく意識を醸成する事業であると考えられる。今後も、多方面からのいじめ防止に向けた取組を継続、充実させていくことを期待する。

やるベンチャーウィーク推進事業では、前年度から引き続き、参加生徒数は概ね目標を達成し、アンケートで「役に立った」と答えた生徒の割合も高く、事業は成果を上げていると認められる。今後も、地域や事業所と連携して、様々な体験を通じて、生徒の生きる力、豊かな人間性や社会性の育成に資する事業が行われることを期待する。

「気になる子」対策事業では、補助金や人的配置を通じて、私立幼稚園、公立幼稚園が行う「気になる子」への対応を充実させているものと認められることから、今後も充実したものとして事業が継続されることを期待する。

読書活動推進事業では、アンケート結果からも、各校が「学校図書館指導員」を活用し、様々な工夫をすることで、学校図書館の「読書センター」、「学習・情報センター」としての機能の充実が図られ、成果を上げていると認められる。今後も、主体的な学びに資する読書活動が子ども達にとって身近なものであるよう事業の充実を図られたい。

学校・家庭・地域連携事業では、学校評議員会の出席者数が目標値を概ね達成し、公募により評議員の人選を行った学校園数も前年度同数であり、広く地域の意見を聴く環境づくりが定着してきていると認められる。今後も、事業に対する検証や、より有効な学校・家庭・地域社会の連携のあり方について研究を行い、地域に開かれた学校づくりに向けた取組を推進していく必要があると考える。

学校教育力向上対策事業について、人権教育講演会は、事業の目的に直結する内容をテーマとしたもので、参加者数も目標を上回っており、効果的なものであったと評価できる。教職員の資質向上を通じ、子どもたちに生きる力を育成するという事業の目的の達成に向けて、各事業の内容を更に検討し、充実したものとされるよう期待する。

通級指導教室推進事業では、改善により退級した児童生徒が66人おり、事業は成果を上げていると認められる。特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加しており、事業の重要性はますます高ま



っていくと考えられることから、更に効果的なものとなるよう事業の充実強化を図られたい。

教育調査研究・研修事業では、法定研修や経年研修などさまざまな研修に対し、受講者が充実した研修であると答えた割合が高い水準を維持していることから、概ね目標を達成していると認められる。今後も、教育の動向や研修のニーズを把握し、より質の高い研修講座を目指し、充実を図っていく必要がある。

適応指導教室推進事業では、各教室における指導により、適応指導教室に通室した児童生徒88人のうち、36人が週一日以上学校へ登校できたことから、事業は一定の成果を上げていると認められる。今後も、不登校に悩む児童生徒の社会的自立や学校復帰をめざした適応指導の充実のため、より各学校や関係機関と連携を図る必要があると考える。

学力向上推進事業では、グループ学習やペア学習等を取り入れた言語活動重視の授業や体験活動重視の授業への改善に取り組んできた効果は表れていると認められるものの、生徒へのアンケートによる各指標が低下していることを踏まえ、必要な見直しを行いながら、事業に取り組んでいく必要があると考える。

キャリア教育推進事業では、体験学習の実施回数は目標を達成し、「役に立った」と答えた生徒の割合は引き続き100%を維持しており、事業は成果を上げているものと認められる。

国際教育推進事業では、英検準2級以上の取得者数が、今年度も目標値を上回っており事業は効果的に進められていると認められる。また、海外派遣事業に参加したことが「役に立った」と答えた生徒の割合が100%を維持し、事業内容も充実してきていると認められる。引き続き、英語活用力の向上を図り、国際化していく社会に対応できる生徒の育成を目指して取組を継続されることを期待する。

## ★施策の視点2 子どもたちの心身の健康と体力の向上

児童生徒等健康管理対策事業では、永久歯う歯及び歯肉炎等治療完了者率は毎年90%を超える実績があり、健康診断や検査結果を事後の保健指導に生かしていることから、事業は目的に沿って実施されていると評価できる。未受検者への個別対応などの課題について引き続き検討しながら事業を継続されたい。

学校保健充実事業では、助産師による授業・性教育講演会については、実績が目標を上回り、受講希望の学校についてはほぼ実施できており、取組が定着してきていると認められる。今後も希望する学校ができる限り受講できるよう、関係機関と調整をしながら、事業を更に発展させていくことを期待する。

部活動充実事業では、文化部部活動も対象として、部活動指導員を各中学校に1名配置することで、部活動の質的向上や教職員の負担軽減に効果を発揮していると考えられる。部活動指導員の増員や資的向上を図ることで、部活動が更に各学校の実情に合った適切で充実したものとなるよう、学校や関係団体等と連携しながら取組を推進していくことを期待する。運動部への外部指導協力者派遣については、各学校のニーズに合わせた活用等、部活動指導員の配置と相まって、適切な部活動の運営に資するものとなるよう検討を行いながら推進していくことを期待する。

学校体育充実事業では、新体力テストの全学年での実施に伴い、各学校における結果の有効的な活用、健康課題の明確化や課題解決に向けた方策を検討していく必要があると考える。中体連に対する大会運営の協力や中体連の県・関東・全国大会における選手派遣に向けた支援等が、今後も継続されるよう期待する。

交通教室事業では、交通教室の参加者数は、目標値には至らなかったものの、親子自転車教室の参加者が増加したことは評価できる。自転車事故発生率及び交通事故総数は同水準で推移していることから、引き続き、交通事故ゼロを目指して、事業を推進していくことを期待する。

給食充実事業では、地場農作物の使用率が目標を下回る傾向が続いていることから、引き続き、要因の検証及び使用促進に向けた研究を行い、地場農作物を生かした安心で安全な学校給食の提供に向けて取り組まれるよう期待する。栄養教諭・栄養士の食指導回数は、実績が同水準を維持しており、取組は定着してきていると認められることから、実施回数を伸ばしていけるよう工夫されるよう期待する。

給食運営事業では、推定値による給食残渣量が中学校及び特別支援学校の残渣は目標値より少なかった一方で、小学校では目標値より少し多かった。今後も目標値を達成できるように引き続き、取組を継続されるよう期待する。

小学生自然体験活動事業では、榛名林間学校榛名湖荘において、引き続き、市内の全58校の小学5年生を対象とした集団宿泊体験学習を実施し、事業は目的に沿って行われていると認められる。今後も活動プログラム等の研究を行い、より充実した事業とされるよう期待する。

「健康教育」啓発事業では、事業の目的がより効果的に達成できるよう、事業に関する調査研究、検討を行い、事業がより充実したものとなるよう努められたい。

### ★施策の視点3 安全で多機能な教育環境づくりの推進

施設の整備については、箕輪小学校改築工事の第一期工事が計画どおり完了し、事業は概ね計画どおりに実施されていると評価できる。今後も、子ども達の安全で快適な教育環境を確保するため、事業の計画的な実施及び適切な進捗管理に努めるとともに、緊急性等を勘案して工事を行うなど、効果的な事業推進に努められたい。

学校体育施設開放事業では、利用者数が昨年度と比較して大幅に増加し、目標値を達成することができた。引き続き、市民がスポーツに親しむことができる環境づくりに向けて、事業の周知に努められたい。

### ★施策の視点4 地域力を育む社会教育の充実

地区推進体制整備事業では、今年度も生涯学習推進研究大会を生涯学習フェスティバルと同時開催することで、効果的に生涯学習に参加する契機を提供することができたと認められる。推進員が関わった地域活動の参加人数は、前年度より減少しているものの、今年度も目標値を達成しており、地域での推進員の役割や活動が定着してきていると考えられる。今後も各事業の充実を図るとともに、手引書等を活用した生涯学習の推進に努められたい。

公民館運営事業では、中央公民館を一時的に他の用途で使用するなどの要因はあるものの、公民館利用者、公民館主催事業への参加者は、前年度より減少しているが、各公民館で地域の特色を生かした様々な事業を行っていることは、参加者の範囲を広げることにつながるものであり、評価することができる。より一層地域の特色を生かし、住民の学習ニーズに対応した魅力ある講座の企画等に努められるよう期待する。

生涯学習推進事業では、生涯学習推進研究事業は、前年度より参加者数が増加し、目標値を達成することができた。出前講座は目標値には僅かに届かなかったものの、回数は前年度より増加しており、事業は定着してきていると認められる。まちづくり出前講座、地域人材登録活用事業も目標値に近い

実績となった。各事業の内容と周知方法について引き続き検討を行い、より多くの学習活動のきっかけや支援となる事業とされることを期待する。高崎学検定は、減少傾向にあった受検者数が平成29年度に増加し、30年度においても同水準を維持したことから、引き続き、事業の周知に努めるとともにより多くの受検に結びつくよう努められたい。また、生涯学習情報提供サイト「まなびネットたかさき」の運用の拡充に引き続き取り組み、市民の学習活動の支援や情報公開の推進を図られたい。

人権文化創造事業では、人権教育講座の参加者が前年度より増加したものの、各事業とも目標値を下回る実績となった。事業の目的に鑑みると、より多くの参加者が望まれる事業であり、事業の内容や周知の方法について、調査、研究、検討を行い、効果的な事業となるよう努められたい。

家庭教育支援事業では、目標値を下回ったものの、参加者数は前年度と同水準を維持し、受講者のアンケート結果も高い満足の割合を維持することができた点は評価することができる。今後も、この事業が子育てに関する悩みや不安を持つ人への支援となるよう講座の充実を図るとともに、必要な情報を必要とする人に伝えられるよう事業の周知方法についても検討に努められたい。

視聴覚教育事業は、フィルムライブラリー貸出し数は目標値に届かなかったものの、前年度比20%増の実績となった。引き続き、資料の充実を図るとともに、周知や啓発に取り組み、資料がより有効に活用されるよう努められたい。

公民館整備事業では、久留馬公民館が竣工し、八幡公民館の改築事業の設計と解体工事を行った。地域づくりの活動拠点である公民館の安全性・利便性を確保するため、計画的な整備事業に努められたい。

社会教育施設改修事業では、市内17か所ある交流館の修繕・工事を行った。施設の安全性・利便性を確保するため、計画的な補修と適切な管理に努められたい。

市民活動センター管理運営事業では、団体登録数は若干の減少であるところ、利用者数は大きく減少している。利用者数の減少は、各団体の催し物の入場者数の影響を受けてのものとの検証であるが、今後の利用者数の動向を確認し、施設が有効に活用されるよう利用の促進に努められたい。

図書館管理運営事業では、個人貸出点数及び貸出人数は、年度により多少の増減はあるものの一定の水準を保っていると認められる。より多くの市民にとって図書館が利用しやすく身近なものとなり、市民の生涯学習に資するよう、所蔵資料やサービスの充実に努められたい。

関係諸機関との連携事業は、学校連携事業が引き続き貸出点数の実績を伸ばしており、特に「学校連携パック」は更に充実が図られていると評価できる。引き続き、関係諸機関との連携を強化して、更にサービス向上、充実されるよう期待する。

## ★施策の視点5 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

文化財保護マスタープラン策定・推進事業については、指針の策定に引き続き文化財保存活用地域計画としての計画策定に向けた検討を進められたい。

日高遺跡保存整備事業では、引き続きJR上越線南側区域の整備を進めるとともに、供用開始区域について、より積極的な活用について検討を進められたい。

箕輪城跡保存整備事業では、事業が着実に推進され、市民の関心も高まっていることから、今後も計画的な事業の推進に努められたい。

北谷遺跡保存整備事業では、今年度も着実に史跡指定地の公有地化を推進することができたと認められる。今後は、高まってきた市民の関心に応える事業について検討が必要と考える。

山名古墳群保存整備事業では、他の史跡の整備計画との連動、整合性等を勘案しながら、引き続き、

整備計画の検討に努められたい。

「世界の記憶 上野三碑」関連事業では、「世界の記憶」登録直後の活況も落ち着いてきたものと思われるが、今後も高崎市の重要な史跡の保存活用が着実に行われていくよう、県や地元ボランティア団体等と協力し、事業を推進されるよう期待する。

文化財管理事業では、見学者数及び文化財作文コンクールの応募者数は前年度と比べて減少しているが、埋蔵文化財調査事業では、入場者数がほぼ横ばいとなっている。他の事業の評価からは、市民の文化財に対する関心の高まりが伺えることから、これらの事業において、企画や事業内容の検討、充実を図り、その関心に応えられるよう努められたい。

多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業及び上野国分尼寺跡範囲確認調査事業では、調査等が着実に進められ、成果を上げていると認められる。引き続き、着実に各遺跡の調査研究や保護に取り組まれることを期待する。

文化財調査事業では、着実に調査等が行われていると認められる。引き続き、文化財の保存管理に資するよう、事業の着実な実施に努められたい。

歴史民俗資料館運営事業では、歴史民俗資料館では入館者の減少傾向が続いているが、榛名歴史民俗資料館では榛名林間に参加する児童の利用等により入館者は昨年度に引き続き増加している。歴史民俗資料館ではより多くの人に本市の生活文化の歴史に触れる機会を提供することができるよう企画の充実や周知活動に努められたい。榛名歴史民俗資料館では、増加する入館者への対応も含めた運営の充実を図られるよう期待する。

観音塚考古資料館運営事業では、企画展の入館者は昨年度と比較して増加しているものの、館としての入館者数は減少している。引き続き企画展の充実を図られるとともに広報活動に注力し、施設が有効に活用されるよう努められたい。

かみつけの里博物館運営事業では、前年度と比較して入館者が大きく増加している。引き続き、企画展と所蔵資料展のバランスのとれた開催、地域との連携強化、積極的な広報活動を心掛け、更に実りある事業とされることを期待する。

多胡碑記念館運営事業では、上野三碑がユネスコ「世界の記憶」に登録された昨年度と比較すると減少し目標値は下回ったものの、入館者数は登録前と比較すると大幅に増加していることから、多くの入館者の期待に応えられるよう更に展示の充実や来館者への対応向上を図られたい。

吉井郷土資料館運営事業では、入館者数が減少しているが、これは企画展を開催せず常設展の充実を図ったことによるものである。常設展充実の効果を発揮できるよう周知活動に努めるとともに、引き続き地域に根ざした資料館として特色のある事業を展開されるよう期待する。

埋蔵文化財センター整備事業では、引き続き市有既存施設等の情報収集を行い、施設の改修や活用の方法について検討に努められたい。

### 3. おわりに

以上、5つの施策の視点ごとに実施された個々の事業の点検・評価結果についての検証作業を行ってきたが、全体としていずれの事業も着実に成果をあげており、まずは、事業に携わった関係者の尽力に敬意を表したい。

冒頭で述べたように、「高崎市教育ビジョン」の計画期間終了に伴って、平成30年度以降の教育行政方針は「高崎市教育大綱」に基づいて施策を体系化することになった。これに伴い、施策の視点が改めて見直され、これまでは7つあった視点が5つの視点に整理し直されている。大掴みにいって、

平成29年度までの施策の視点のうち「心の出会いを大切に作る図書館の創造」と「高校生が自主的・自律的に生きるために必要な力の育成」の2つは、平成30年度から、前者が「地域力を育む社会教育の充実」に、後者が「生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成」へと包摂されることとなった。

このように施策の視点が5つに整理し直されたことによって、(1)幼児教育から高等学校における教育にいたるまでの学力向上（施策の視点1）と、健康と体力の向上（施策の視点2）、これらを実現するための物的基盤の整備（施策の視点3）、(2)社会教育とその充実のための物的基盤の整備（施策の視点4）、(3)文化環境づくりの推進とそのための物的基盤の整備（施策の視点5）、すなわち、学校教育、社会教育、文化環境づくりの3つの領域のそれぞれにおけるソフトとハードの両側面からの取組がより分かりやすい形で示されることになったことは評価できる。ただし、施策の視点を整理し直したことは、取組の位置づけを改めて確認する機会ともなる。たとえば、図書館の役割を社会教育の充実の観点から評価するということになれば、資料の貸出人数や貸出点数だけでなく、市民に対して図書館の側からどのような主体的な働きかけがなされたのかについても可視化し検証する必要があるだろう。

5つの施策の視点に基づいて実施された個々の事業の多くも、平成29年度から継承されたものであり、事業の継続性という観点からすれば、大きな加除修正がなされる性格のものではないが、平成30年度から新たに加えられた事業項目がある。施策の視点1の「いじめ防止対策事業」、「気になる子対策事業」、「読書活動推進事業」、施策の視点2の「部活動充実事業」、施策の視点4の「社会教育施設改修事業」、施策の視点5の「世界の記憶 上毛三碑 関連事業」である。これらのうち「部活動充実事業」と「世界の記憶 上毛三碑 関連事業」は平成30年度からの新しい事業（あるいは特に新たな取組を含むもの）であるが、これら以外の事業は以前から取り組まれていたものが、平成30年度から改めて検証の対象とする事業項目とされた。

いじめの問題にせよ、部活動の充実と部活動を指導する教職員の負担軽減にせよ、社会の関心も高く問題の重要性の高い事象であり、これらに対応する事業が新たな項目として付け加えられたことは評価できる。これまで実施されていた事業であっても改めて検証の対象とされたことにより、それらの事業目的が関係者により明確に意識されるだけでなく、その事業の成果を可視化すると同時に可視化するための指標の構築につなげられ、その評価が社会に承認されるものになる必要がある。たとえば、いじめの問題についていえば、いじめ認知後の解消だけでなくいじめの未然防止についても、また、部活動の問題についていえば、部活動指導員の配置人数だけでなく中学校の現場における教職員の働き方への影響の実態などについても今後しっかりと検証していく必要があるだろう。

いずれにせよ、成果を検証するプロセスは、同時に成果を可視化するための指標の構築のプロセスでもある。成果を可視化するための指標の再検討が、逆に事業目的の見直しを迫ることがある。成果の可視化と事業目的の再構築が好循環を生み、その結果として、事業の質的向上がもたらされることを期待したい。

公立大学法人高崎経済大学  
経済学部教授 唐澤達之

## VI 点検・評価結果を踏まえた教育委員会の対応・方向性

本報告書に記載した点検・評価は、平成30年度の教育行政方針に掲げられた施策について実施したもので、5つの施策に係る事業の実施状況等についての評価検証を行いました。

平成30年度における各事業の実施状況については、それぞれの事業が概ねその目的に沿って実施され、成果を上げています。なかでもALTによる授業時間数は昨年度に引き続き目標を上回るものとなり、新たに点検・評価の対象となった「世界の記憶 上野三碑」関連事業とあわせて、国際都市としての高崎の教育行政に資する成果をあげることができたものと考えられます。

一方で、参加者数や利用者数が減少した事業や目標が達成されていない事業も認められ、これらの事業については、点検・評価による検証等を踏まえ、実施方法の改善や事業の見直しに努めたいと考えています。

今回の点検・評価は、これまで教育行政の指針としてきた「高崎市教育ビジョン」の計画期間満了に伴い、市長と教育委員会で構成する総合教育会議において策定された「高崎市教育大綱」に基づいて体系化された施策を対象として行う初めての点検・評価となりました。今後、新たな体系に基づく事業を実施していくに当たり、学識経験者の提言を生かし、継続して実施している事業についても、各事業の位置づけや意義・目的を再認識するとともに評価の指標についても再検討と再構築を行い、各事業の質的向上を図ることができるよう、この点検・評価の成果を活用していきたいと考えています。

今後も、社会の関心に合わせた変化に応じるとともに、これまで以上に市長部局と連携した視点から、「教育と人づくり」の実現と更なる教育行政の充実に向けた検討と取組を行っていきます。

## 生涯学習都市宣言

わたくしたち高崎市民は  
生きとし生けるものが共に生き  
自然と人間と経済の調和する  
文化の香り高い  
豊かなまちづくりをめざします

ひとりひとりが  
自らの人間性を高めるため  
生きがいのある人生を求めため  
あすをひらく意欲に燃えて  
生涯学び続けるよう努めます

ここに  
いつでも どこでも だれでも  
たのしく学べるまち  
「生涯学習都市高崎」を宣言します

平成7年12月2日制定

## 人権尊重都市宣言

人はだれでも、一人ひとりかけがえのない存在として尊重され、豊かに、健康で幸せな生活を営む権利をもっています。この基本的人権は、いかなる理由があっても侵害されるものではありません。

わが国では、日本国憲法に明示されている基本的人権の確立のため、人権擁護のさまざまな努力が続けられてきました。いまや、地球規模の交流時代の中で、人権の尊重がいつそう強い社会的要請にまで高まっています。

私たちは、すべての市民の人権を等しく保障するために平和及び人権尊重について、共に学び行動し、明るい民主的社会的実現を図る必要があります。

ここに、私たち市民は、憲法のかかげる平和及び人権の確立とその擁護のための活動を推進し、人と人とのふれあいを大切にし、いたわりの心がゆきわたる市民生活の充実した高崎市を築くために、「人権尊重都市」を宣言します。

平成7年11月30日制定

## 核兵器廃絶平和都市宣言

私たち高崎市民は、ふるさと高崎を愛し、しあわせがみんなに広がるまちづくりを、未来への道しるべとしています。

しかし、いま私たちの生活に大きな暗い影をおとしているものがあります。それは人類を滅亡におとし入れる核兵器です。この核兵器の廃絶こそ、私たち高崎市民の願いです。

私たちは、平和を愛するすべての国の人々とともに、真の永久平和を実現することを決意し、ここに「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。

昭和61年3月5日制定



令和元年度(2019年度)  
教育委員会の点検・評価報告書  
平成30年度(2018年度)事業対象

発行 高崎市教育委員会  
370-8501 高崎市高松町 35-1  
電話 027-321-1291  
FAX 027-328-2261  
E-mail ky-soumu@city.takasaki.gunma.jp  
編集 高崎市教育委員会事務局